

秋田県立博物館

年 報

令和4年度

秋田県立博物館



## はじめに

秋田県立博物館は、1975(昭和50)年5月、郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与することを目的に、自然豊かな小泉潟公園の一角に誕生しました。1996(平成8)年4月、「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」を開設し、ふるさと秋田を創ってきた先覚に学ぶ拠点としての機能を加えました。2004(平成16)年4月には、リニューアルオープンを経て、県民の多様なニーズに応え、生涯学習に資するとともに、県内の各種博物館と連携しながら、総合博物館として中心的な役割を果たしてまいりました。

今年度も依然として、コロナ禍による不安感や閉塞感の中にあります。新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」を意識した博物館の運営はもとより、社会の様々な変化に対応し、県民の皆様に安心感や充実感を提供し、生涯学習や学校教育への支援を積極的に行うなど、これまで蓄積してきた博物館の財産を継承し、来たるべき2025(令和7)の開館50周年に向けて、魅力ある博物館の姿を追求してまいります。

時代の流れを察知し、収集情報や館内のデジタル化を推進するとともに、秋田県立博物館が持っている、ふるさと秋田の有形・無形の財産をできる限り多くの皆様に公開し、感動や発見、学び合う楽しさ等を体験していただければ幸いです。

「本物」にじかに触れてこそ、博物館の本領を発揮できる場所ですが、コロナとの共生を踏まえた新たな方法を取り入れて、皆様のご期待に添えるように努力してまいります。2022(令和4)年度も、秋田県立博物館にご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 小園 敦

## 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ■ 施設の概要                     |    |
| I 博物館のあゆみ .....             | 4  |
| II 施設・設備 .....              | 5  |
| III 展示室 .....               | 9  |
| IV 組織 .....                 | 13 |
| V 職員 .....                  | 14 |
| ■ 事業の概要                     |    |
| I 令和4年度博物館運営方針 .....        | 16 |
| II 令和4年度博物館事業計画 .....       | 16 |
| 1 重点目標 .....                | 16 |
| 2 活動計画 .....                | 17 |
| III 令和3年度事業報告 .....         | 20 |
| 1 調査研究活動 .....              | 20 |
| 2 資料収集管理活動 .....            | 23 |
| 3 展示活動 .....                | 25 |
| 4 教育普及活動 .....              | 31 |
| 5 広報出版活動 .....              | 35 |
| 6 学習振興活動 .....              | 36 |
| 7 館外活動 .....                | 39 |
| 8 令和3年度のあゆみ .....           | 40 |
| ■ 資料                        |    |
| I 収蔵資料の概要 .....             | 42 |
| II 歴代館長、特別展等一覧 .....        | 43 |
| III 秋田県立博物館条例 .....         | 44 |
| IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） ..... | 45 |
| 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） ..... | 45 |
| V 入館者に関する資料 .....           | 46 |

## 施設の概要

---

# I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案  
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定  
47年 3月 県立博物館設立構想完成  
49年 11月 定礎式  
50年 3月 秋田県立博物館条例制定  
5月 開館式（5日）  
一般公開（10日）  
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される  
7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）  
53年 10月 皇太子皇太子妃両殿下行啓  
54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン  
55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足  
59年 9月 開館10周年記念式典  
63年 9月 本館屋根防水工事完了  
平成 3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催  
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工  
4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成  
5年 7月 増築工事着工  
7年 8月 増築工事完成  
8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン  
9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置  
11年 4月 入館料が無料となる  
14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館  
15年 10月 改修建築・設備工事完成  
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元  
16年 3月 展示工事完成  
4月 リニューアルオープン  
17年 12月 開館30周年記念式典  
18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録  
20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される  
27年 9月 開館40周年記念式典  
29年 7月 皇太子皇太子妃両殿下行啓  
令和 4年 3月 館内Wi-Fi化工事完了

## Ⅱ 施設・設備

|       |                            |                   |
|-------|----------------------------|-------------------|
| 設置場所  | 秋田市金足鳩崎字後山52               | (株)中田建築設備         |
| 敷地面積  | 15,000.32㎡                 | (株)ユアテック秋田支社      |
| 建築面積  | 6,237.93㎡                  | サン電気工業(株)         |
| 建築延面積 | 11,946.2㎡                  | 展示製作実施設計 (株)丹青社   |
| 建築構造  | 鉄骨鉄筋コンクリート造り<br>地上3階、塔屋2階建 | 展示製作委託施工 (株)乃村工藝社 |

### 【建築工事】

|      |   |
|------|---|
| 建築費  | 2,058,131千円<br>(含調査事務費・展示資料費)   |
| 着工   | 昭和48年7月   |
| 竣工   | 昭和49年11月  |
| 開館   | 昭和50年5月   |
| 工事業者 | 建築設計 (株)安井建築設計事務所<br>建築施工 三井建設(株)<br>設備施工 (株)三晃空調<br>東北電気工事(株)<br>展示設計施工 (株)丹青社 |

### 【増築工事】

|      |  |
|------|--|
| 建築費  | 1,578,174千円<br>(含調査事務費・展示資料費)  |
| 着工   | 平成6年7月   |
| 完成   | 平成8年2月   |
| 増設開館 | 平成8年4月   |
| 工事業者 | 建築設計 (株)安井建築設計事務所<br>建築施工 三井建設(株)<br>設備施工 (株)ユアテック<br>日の出施設工業(株)<br>株三和施設<br>日本オーチスエレベータ(株)<br>展示設計施工 (株)アートシステム |

### 【NMP事業】

|          |   |
|----------|---|
| 事業費      | 2,087,400千円<br>{総事業費(含調査事務費、<br>展示製作委託費)}                                   |
| 着工       | 平成14年3月   |
| 完成       | 平成16年3月   |
| リニューアル開館 | 平成16年4月29日  |
| 工事業者     | 建築設計 (株)安井建築設計事務所<br>建築施工 (株)林工務店<br>(株)清水組JV<br>設備施工 大民施設工業(株)<br>(株)あたごJV |

### 設 備

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 〈電気設備〉                    |   |
| (1) 受電電圧                  | 3φ6,600V 50HZ   |
| 一般照明用                     | 450KVA (150×3)  |
| 一般動力用                     | 550KVA (300×1)<br>(250×1)   |
| 非常照明用                     | 50KVA   |
| 非常動力用                     | 150KVA  |
| (2) 発電機設備                 | 発電電圧 3φ6,600V<br>50HZ 200KVA<br>エンジン ディーゼル 230KVA   |
| (3) 蓄電池設備                 | 108V 200AH 10HR<br>54セル   |
| (4) その他幹線・動力・電灯用設備一式      |   |
| 〈警戒(報)設備〉                 |   |
| (1) レーダー警報設備(展示室・収納庫)     | 方式、パッシブインフラレッド方式<br>レーダー検出 10ヶ所<br>ドアスイッチ 10ヶ所  |
| (2) I・T・V監視設備             | 監視用カメラ 21台<br>(展示室14台 収蔵庫4台<br>1Fホール1台 外2台)   |
| (3) 一般・非常放送設備             | ロッカ型防災アンプ 容量 200W<br>非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)   |
| 〈空調換気設備〉                  |   |
| (1) 冷凍機設備(備熱水槽方式 容量780m³) | 直焚吸収式冷温水機 冷却能力<br>1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基<br>ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統)<br>冷却能力 312KW 1基<br>空冷チリングユニット(夜間運転系統)<br>冷却能力 132KW 1基 |
| (2) ボイラー設備                | 貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW<br>(換算蒸発量1,500kg/h)  |

伝熱面積 9.9m<sup>3</sup> 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m<sup>3</sup>/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m<sup>3</sup>/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・垂れ壁 6ヶ所

防火戸36ヶ所・防火シャッター 6ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓17ヶ所 屋外消火栓14ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベーター

容量2,500kg 45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター

積載量750kg 11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線 5回線 内線57回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

### 建築予算

単位：千円

| 区分       | 44~46年度 | 47年度   | 48年度    | 49年度      | 計         | 財源内訳      |
|----------|---------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 計画策定費    | 17,980  | 34,267 | 16,960  | 10,195    | 79,402    | 国庫        |
| 建物費      | -       | -      | 591,754 | 760,996   | 1,352,750 | 80,000    |
| 展示・資料費   | 41,880  | 20,000 | 183,907 | 318,758   | 564,545   | 県債        |
| 初度調弁・その他 | -       | -      | 3,240   | 35,400    | 38,640    | 1,241,000 |
| 調査事務費    | 7,246   | 5,835  | 5,828   | 3,885     | 22,794    | 一般        |
| 計        | 67,106  | 60,102 | 801,689 | 1,129,234 | 2,058,131 | 737,131   |

### 増築予算

単位：千円

| 区分       | 3~4年度  | 5年度    | 6年度     | 7年度     | 計         | 財源内訳      |
|----------|--------|--------|---------|---------|-----------|-----------|
| 計画策定費    | 10,850 | 57,125 | 6,845   | 7,268   | 82,088    | 県債        |
| 建物費      | -      | -      | 354,805 | 613,438 | 968,243   | 1,117,000 |
| 展示・資料費   | -      | 1,500  | 141,784 | 310,534 | 453,818   |           |
| 初度調弁・その他 | -      | -      | -       | 11,000  | 11,000    | 一般        |
| 調査事務費    | 2,200  | 9,770  | 22,257  | 28,798  | 63,025    | 461,174   |
| 計        | 13,050 | 68,395 | 525,691 | 971,038 | 1,578,174 |           |

### NMP21事業予算

単位：千円

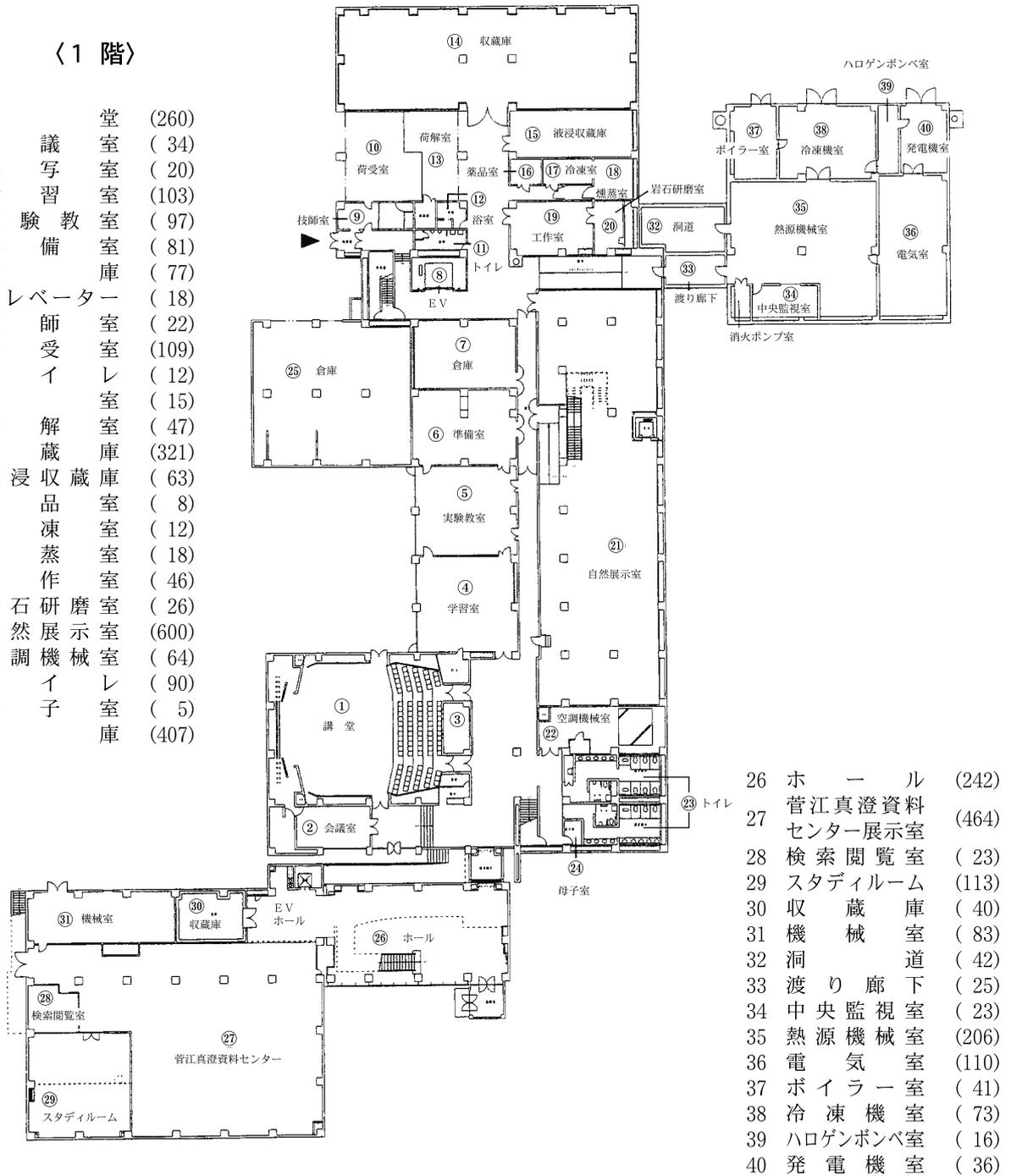
| 区分    | 11年度   | 13年度   | 継続費   |         |           | 小計        | 事業費合計     | 財源内訳      |
|-------|--------|--------|-------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|       |        |        | 13年度  | 14年度    | 15年度      |           |           |           |
| 工事請負費 | -      | -      | 0     | 646,007 | 396,418   | 1,042,425 | 1,042,425 | 県債        |
| 委託費   | 9,870  | 39,995 | 0     | 60,676  | 919,184   | 979,860   | 1,029,725 | 1,516,000 |
| 調査事務費 | 5,250  | -      | 1,296 | 4,522   | 4,182     | 10,000    | 15,250    | 一般        |
| 計     | 15,120 | 39,995 | 1,296 | 711,205 | 1,319,784 | 2,032,285 | 2,087,400 | 571,400   |

# 一各階平面図一

( ) 内の数字は面積 (単位㎡)

## 〈1階〉

- 1 講堂 (260)
- 2 会議室 (34)
- 3 映写室 (20)
- 4 学習室 (103)
- 5 実験教室 (97)
- 6 準備室 (81)
- 7 倉庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技師室 (22)
- 10 荷受室 (109)
- 11 トイレ (12)
- 12 浴室 (15)
- 13 荷解室 (47)
- 14 収蔵庫 (321)
- 15 液浸収蔵庫 (63)
- 16 薬品室 (8)
- 17 冷凍室 (12)
- 18 燻蒸室 (18)
- 19 工 作 室 (46)
- 20 岩石研磨室 (26)
- 21 自然展示室 (600)
- 22 空調機械室 (64)
- 23 トイレ (90)
- 24 母子室 (5)
- 25 倉庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞 道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンポンペ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

### 部門別床面積(㎡)

|        |       |
|--------|-------|
| 展示部門   | 3,620 |
| 研究部門   | 388   |
| 収蔵部門   | 1,999 |
| 教育普及部門 | 595   |
| 計      | 6,602 |

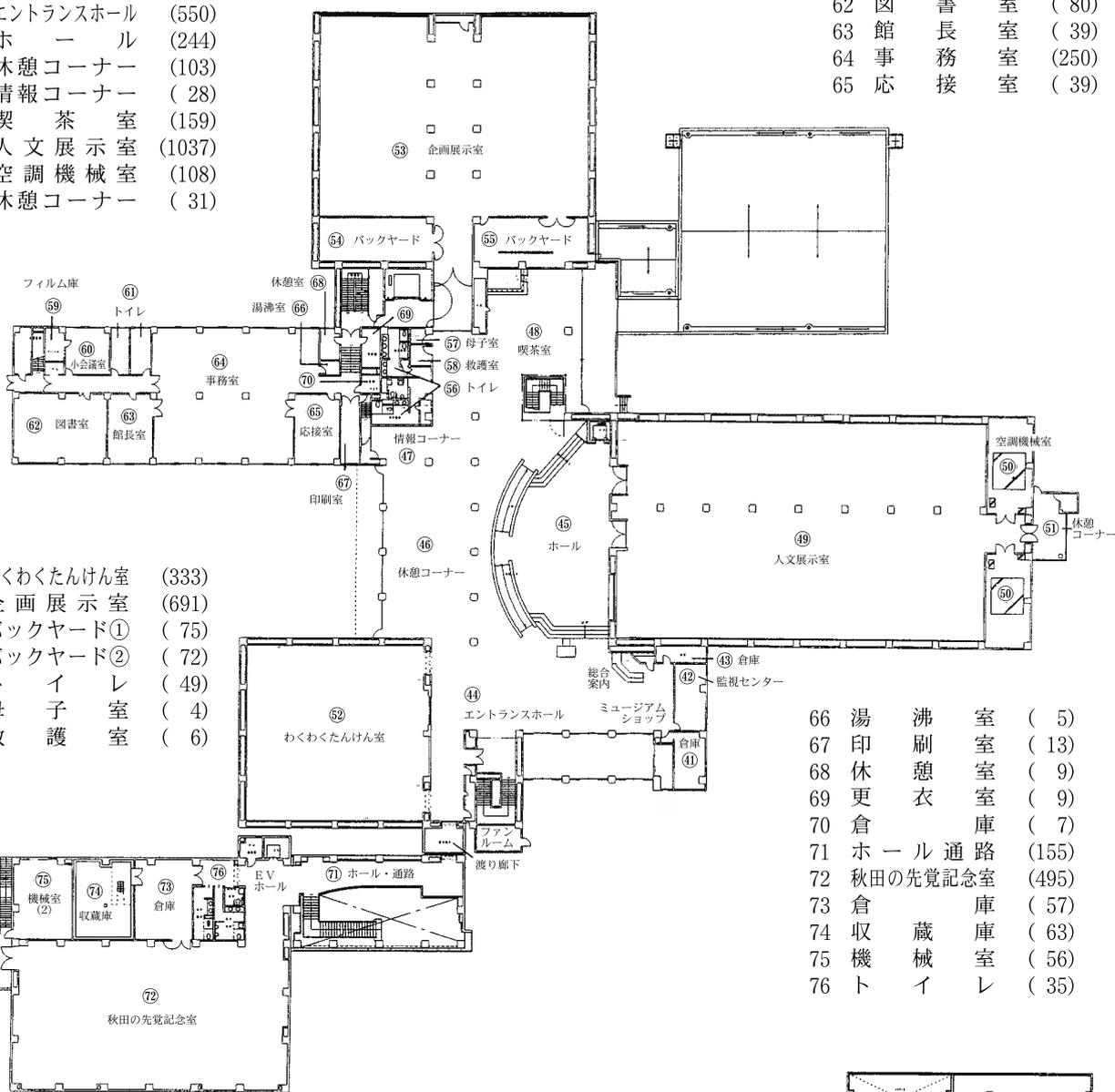
### 階別面積(㎡)

|    |            |
|----|------------|
| 1階 | 4,546.578  |
| 2階 | 5,530.486  |
| 3階 | 1,706.694  |
| 屋階 | 162.44     |
| 計  | 11,946.198 |

〈2階〉

- 41 倉庫 (23)
- 42 監視センター (25)
- 43 倉庫 (14)
- 44 エントランスホール (550)
- 45 ホール (244)
- 46 休憩コーナー (103)
- 47 情報コーナー (28)
- 48 喫茶室 (159)
- 49 人文展示室 (1037)
- 50 空調機械室 (108)
- 51 休憩コーナー (31)

- 59 フィルム庫 (9)
- 60 小会議室 (26)
- 61 トイレ (29)
- 62 図書室 (80)
- 63 館長室 (39)
- 64 事務室 (250)
- 65 応接室 (39)

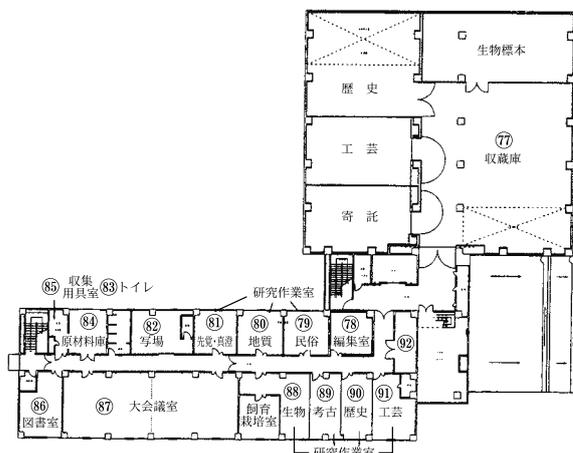


- 52 わくわくたんけん室 (333)
- 53 企画展示室 (691)
- 54 バックヤード① (75)
- 55 バックヤード② (72)
- 56 トイレ (49)
- 57 母子室 (4)
- 58 救護室 (6)

- 66 湯沸室 (5)
- 67 印刷室 (13)
- 68 休憩室 (9)
- 69 更衣室 (9)
- 70 倉庫 (7)
- 71 ホール通路 (155)
- 72 秋田の先覚記念室 (495)
- 73 倉庫 (57)
- 74 収蔵庫 (63)
- 75 機械室 (56)
- 76 トイレ (35)

〈3階〉

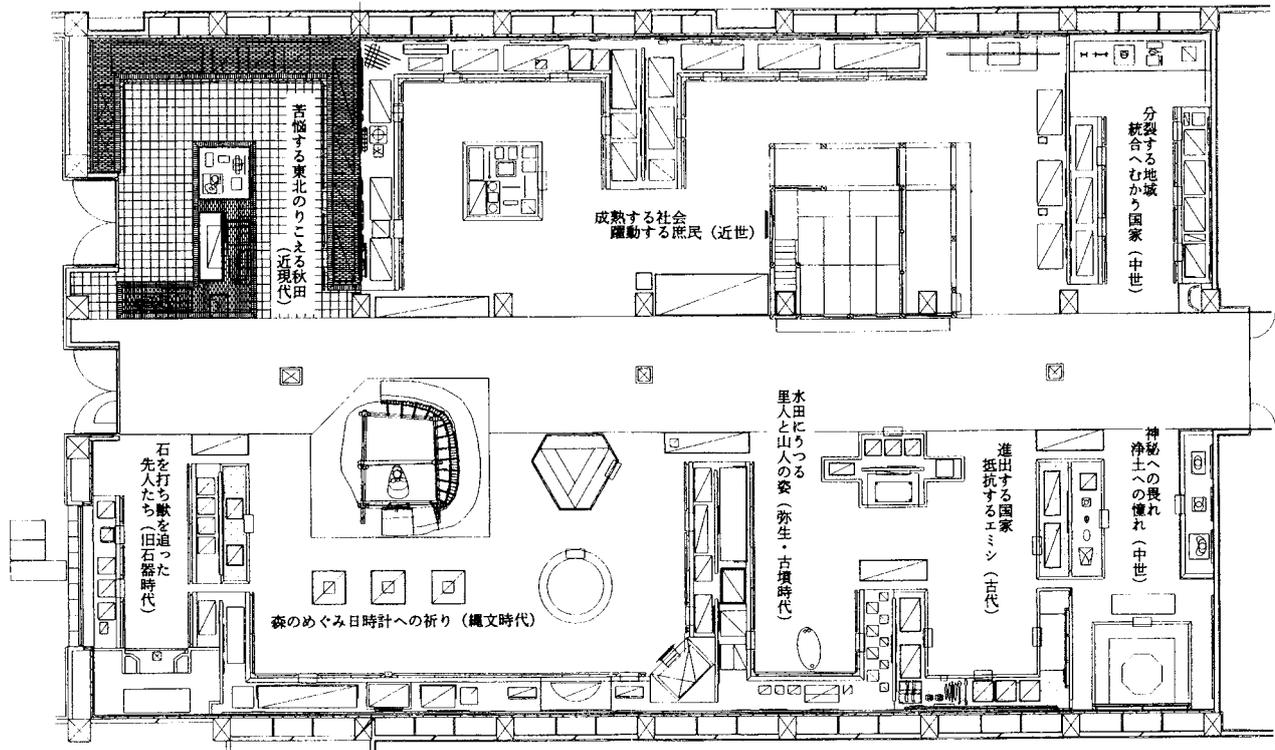
- 77 収蔵庫 (840)
- 78 編集室 (27)
- 79 研究作業室(民俗) (28)
- 80 " (地質) (28)
- 81 " (先覚・真澄) (27)
- 82 写場・暗室 (38)
- 83 トイレ (15)
- 84 原材料庫 (24)
- 85 収集用具室 (10)
- 86 図書室 (34)
- 87 大会議室 (158)
- 88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 89 研究作業室(考古) (27)
- 90 " (歴史) (27)
- 91 " (工芸) (39)
- 92 倉庫 (19)



### Ⅲ 展 示 室

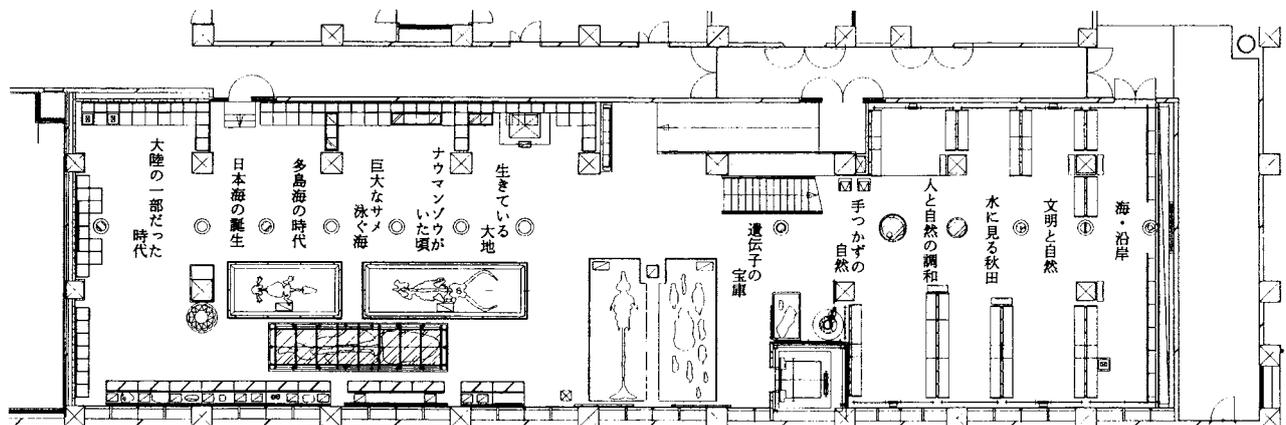
#### ◆ 人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

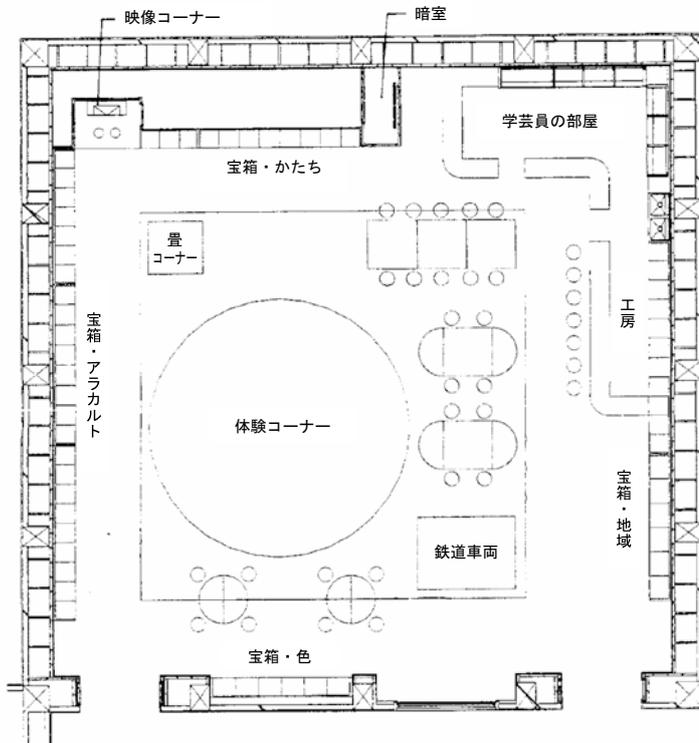


#### ◆ 自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



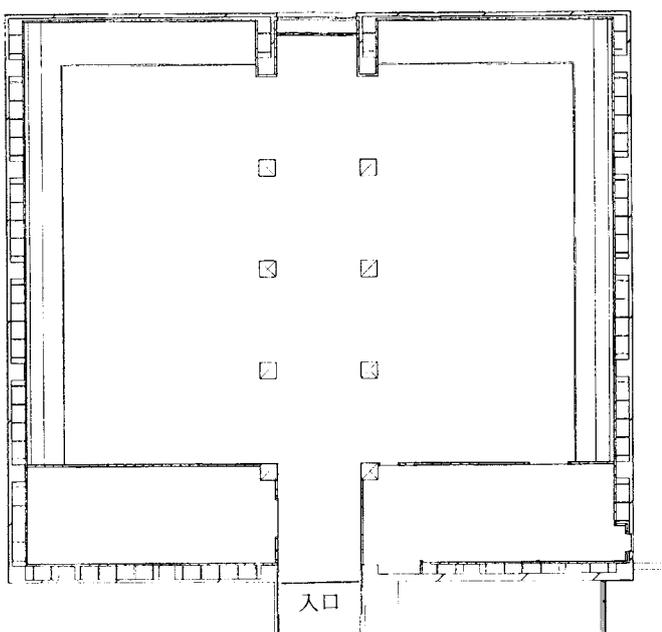
## ◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動しながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。



## ◆ 企画展示室



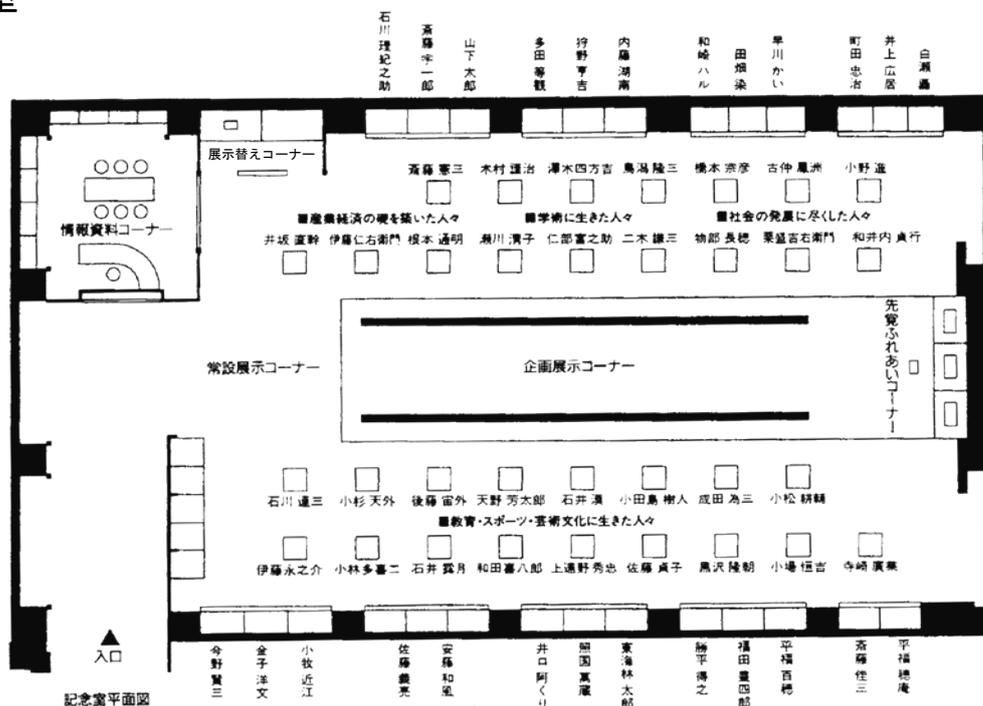
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



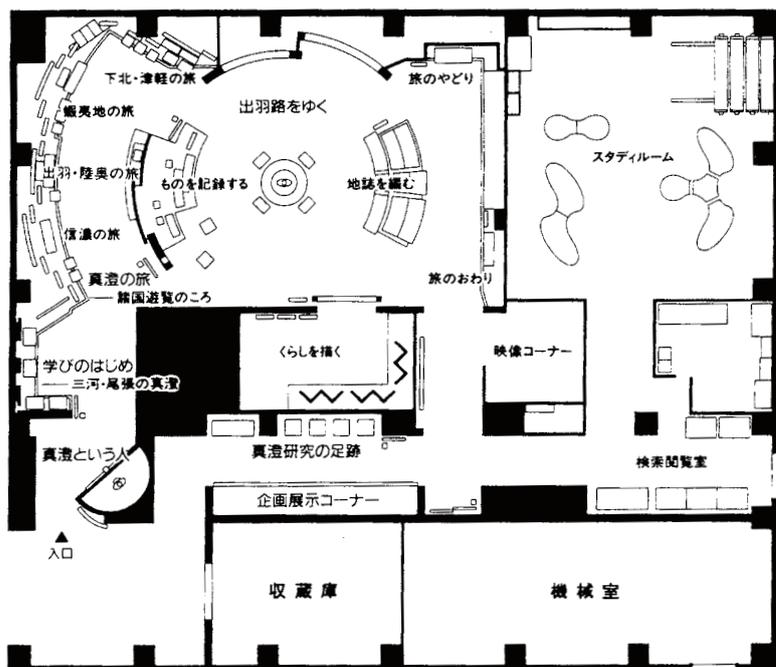
## ◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



## ◆ 菅江真澄資料センター



資料センター平面図

江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

## ◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

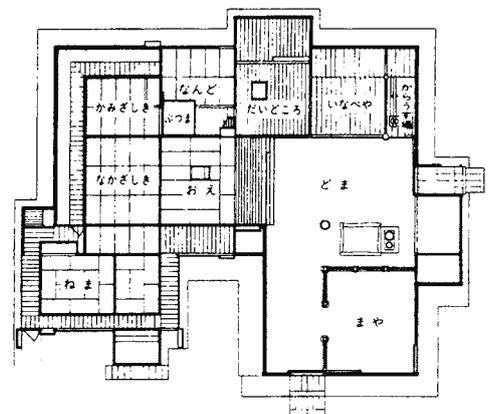
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男湯北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉瀧公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



## ◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

**味噌蔵**……明治7年に建造された、土蔵造の建物

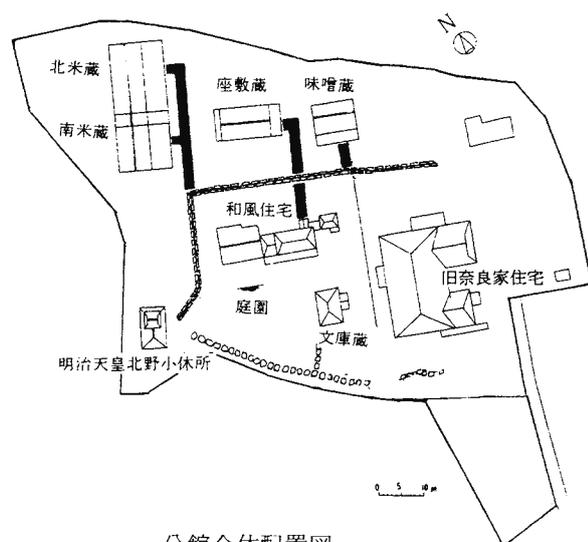
**座敷蔵**……明治23年に建造された、土蔵造の建物

**米蔵**……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

**明治天皇北野小休所（移築）**……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

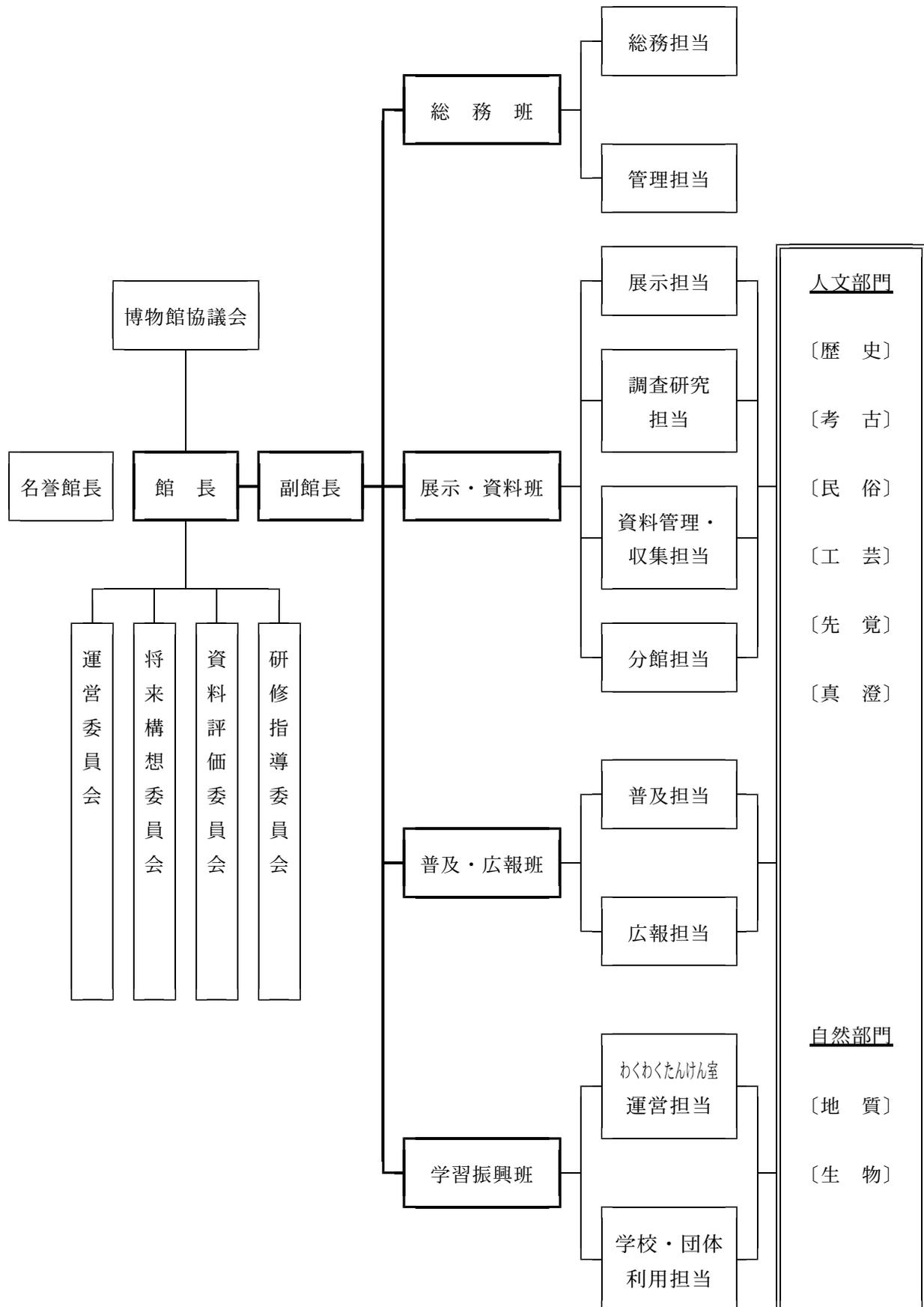
**和風住宅**……明治28年に建造された、木造二階建の建物

**文庫蔵**……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

# IV 組 織



# V 職 員

| 班名     | 職 名             | 氏 名     | 各班の分掌と部門担当                    |
|--------|-----------------|---------|-------------------------------|
|        | 館 長             | 小 園 敦   | 総括                            |
|        | 副 館 長           | 関 谷 洋 之 | 館長の補佐                         |
| 総務班    | 副 主 幹<br>(兼)班長  | 児 玉 弥生子 | 班の総括、危機管理に関すること               |
|        | 主 査             | 佐 藤 貴 子 | サービス、給与に関すること、歳入予算に関すること      |
|        | 主 事             | 佐 藤 麗美奈 | 管理、営繕に関すること、歳出予算に関すること        |
|        | 技 能 主 任         | 武 田 光 彦 | 空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること     |
|        | 技 能 主 任         | 佐 藤 彰 洋 | 公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること      |
| 展示・資料班 | 副 主 幹<br>(兼)班長  | 新 堀 道 生 | 班の総括、歴史部門に関すること               |
|        | 主 査<br>(兼)学芸主事  | 渡 部 均   | 地質部門に関すること、調査研究・資料管理に関すること    |
|        | 主 査<br>(兼)学芸主事  | 山 本 丈 志 | 工芸部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること    |
|        | 学 芸 主 事         | 渡 部 猛   | 考古部門に関すること、調査研究・資料管理に関すること    |
|        | 学 芸 主 事         | 藤 中 由 美 | 生物部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること    |
|        | 主 任<br>(兼)学芸主事  | 千 田 育 栄 | 先覚部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること    |
| 普及・広報班 | 主任学芸主事<br>(兼)班長 | 藤 原 尚 彦 | 班の総括、工芸部門に関すること               |
|        | 副 主 幹           | 加 藤 竜   | 考古部門に関すること、教育普及に関すること         |
|        | 学 芸 主 事         | 黒 川 陽 介 | 歴史部門に関すること、広報に関すること           |
|        | 学 芸 主 事         | 斉 藤 洋 子 | 工芸部門に関すること、教育普及に関すること         |
|        | 学 芸 主 事         | 角 崎 大   | 真澄部門に関すること、広報に関すること           |
| 学習振興班  | 副 主 幹<br>(兼)班長  | 丸 谷 仁 美 | 班の総括、民俗部門に関すること               |
|        | 主 査<br>(兼)学芸主事  | 大 森 浩   | 地質部門に関すること、学校団体利用に関すること       |
|        | 学 芸 主 事         | 齋 藤 知佳子 | 先覚部門に関すること、わくわくたんけん室の運営に関すること |
|        | 学 芸 主 事         | 深 浦 真 人 | 民俗部門に関すること、わくわくたんけん室の運営に関すること |
|        | 学 芸 主 事         | 三 浦 益 子 | 生物部門に関すること、学校団体利用に関すること       |

|                |                     |                |
|----------------|---------------------|----------------|
| [ 会計年度任用職員 ]   |                     |                |
| 畑 澤 俊 視 (ボイラー) | 加 賀 谷 洋 子 (展示解説・案内) | 嵯 峨 彩 子 (学芸補助) |
| 三 浦 信 一 (同)    | 小 林 純 子 (同)         | 佐 々 木 由 衣 (同)  |
| 黒 沢 清 直 (守 衛)  | 佐 藤 里 美 (同)         | 藤 井 千 里 (同)    |
| 石 黒 司 (同)      | 関 谷 百 世 (同)         | 唐 津 谷 浩 生 (同)  |
| 鈴 木 博 (同)      | 廣 嶋 綾 子 (同)         | 鈴 木 美 喜 子 (同)  |
| 最 上 武 元 (同)    | 三 浦 由 華 子 (同)       | 佐 野 富 之 (同)    |
| 虻 川 政 法 (工 作)  | 渡 會 知 子 (同)         |                |
|                | 宮 腰 満 実 子 (同)       |                |
|                | 佐 藤 未 央 (同)         |                |

## 事業の概要

---

## I 令和4年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに培ってきた博物館活動の成果を継承し、さらに発展させることにより、県民文化の向上に寄与する。

- 1 秋田に関する調査研究をさらに進め、県民の知の拠点となる施設を目指す。
- 2 秋田を代表する文化や自然を次世代につなげるために、資料の収集・保存に努め、広く秋田の魅力を発信する。
- 3 県内唯一の県立の総合博物館として、魅力ある展示・公開を行う。
- 4 県民の生涯学習に資する社会教育施設を目指し、教育普及活動に取り組む。

## II 令和4年度博物館事業計画

### 1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
  - ア 組織的、計画的な調査研究に取り組み、学芸職員の専門性の向上を図る。
  - イ 調査研究の成果を、広く県民に公開・発信する機会を継続して設ける。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
  - ア 収蔵資料の増加に対応すべく、収蔵資料の整理及び収蔵環境の維持と改善に取り組む。
  - イ 収集情報のデジタル化を推進し、県内外の諸機関との連携を図り、情報を広く発信する。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
  - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
  - イ 来館者の声を活かし、県民目線に立ち、他の機関とも連携した展示活動を実施する。
- (4) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
  - ア 博物館教室、展示関連事業等により、普及活動の充実を図る。
  - イ 諸機関との連携事業や館外講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (5) 博物館活動の広報を通して、郷土への誇りや愛着の醸成に努める。
  - ア 印刷物やホームページ、SNS等、それぞれの媒体の特徴を活かしながら博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
- (6) 博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。
  - ア 体験型展示室の充実を図り、県民の博物館への興味・関心を高める。
  - イ 学校教育との一層の連携を図り、セカンドスクールの利用や出前授業の充実に努める。

## 2 活動計画

### 調査研究

- ◇部門研究の推進
- ◇共同研究、地域研究、博物館学的研究の推進
- ◇研究報告第48号の編集・発行
- ◇調査研究報告会の運営など情報の発信

### 資料収集管理

- ◇資料収集・整理・保存・管理の徹底
- ◇資料データベース化の推進
- ◇収蔵庫管理の推進
- ◇燻蒸消毒作業  
・収蔵庫 ◎燻蒸期間 9月5日(月)～12日(月)

### 展示

- ◇展示活動
  - ・企画展示室における企画展・特別展
    - 企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」  
4月29日(金・祝)～7月3日(日)
    - 特別展「大恐竜展秋田－生命の鼓動を感じて－」  
7月23日(土)～8月28日(日)
    - 企画展「秋田の縄文遺産」  
9月24日(土)～11月6日(日)
    - 企画展「新着・収蔵資料展」  
11月26日(土)～令和5年4月2日(日)
  - ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
    - 「地誌『雪の出羽路平鹿郡』を読む」第1期  
7月16日(土)～9月4日(日)
    - 「地誌『雪の出羽路平鹿郡』を読む」第2期  
10月22日(土)～12月11日(日)
    - 「真澄、はじめての秋田」  
令和5年3月25日(土)～5月14日(日)
  - ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
    - 「武藤鉄城－秋田の考古と民俗－」  
9月24日(土)～11月27日(日)
- ・ふるさとまつり広場
  - 子どもの成長を願う－鹿島船－  
4月21日(木)～6月21日(火)
  - 夏のまつり－七夕絵どうろう－  
7月7日(木)～8月31日(水)
  - 巧みな手仕事－刺し子－  
9月29日(木)～11月15日(火)
  - 昔の遊び－秋田の凧－  
12月1日(木)～令和5年2月7日(火)
  - 春の訪れ－ひな人形・押絵－  
令和5年2月22日(水)～4月4日(火)
- ・常設展示室における可変展示
- ・他施設との連携展示
  - 秋田県立図書館「絵葉書にみる昔の秋田」  
4月8日(金)～5月24日(火)
  - 大館市立栗盛記念図書館出張展示（真澄関係）  
11月2日(水)～11月13日(日)

教育普及

|  |                          |           |
|--|--------------------------|-----------|
| ◇博物館教室・講演会   | (19)男鹿に伝わるトジナの技術         | 3月5日(日)   |
| (1)化石と地層の観察会 5月22日(日)、5月29日(日)   | (20)「真澄に学ぶ教室」講演会         | 10月9日(日)  |
| (2)昆虫教室－採集と標本づくり－<br>7月10日(日)、8月7日(日)  | (21)秋田の先覚記念室講演会          | 10月30日(日) |
| (3)「真澄に学ぶ教室」講読会－県外の日記を読む－  | ◇名誉館長館話                  |           |
| 土曜日コース 5月28日、6月25日、7月23日、<br>9月24日、10月22日、11月26日、<br>12月24日、1月28日、2月25日、<br>3月25日                      | (1)前期「秋田の中世武将と近世学者」      |           |
| 日曜日コース 5月29日、6月26日、7月24日、<br>9月25日、10月23日、11月27日、<br>12月25日、1月29日、2月26日、<br>3月26日                      | ①中世秋田武将の諸相               | 5月20日(金)  |
| (4)初級者向け 秋田の歴史教室(戦国～桃山編)<br>7月17日(日)、8月7日(日)   | ②佐藤信淵(1回目)               | 6月17日(金)  |
| (5)初級編 北東北秋田の縄文を学ぼう<br>7月30日(土)、8月6日(土)、12月24日(土)  | ③佐藤信淵(2回目)               | 7月15日(金)  |
| (6)三浦館と旧奈良家住宅の見学会 9月30日(金)   | (2)後期「秋田近世の学者」           |           |
| (7)旧奈良家住宅で昔語り 10月2日(日)   | ①平田篤胤(1回目)               | 9月16日(金)  |
| (8)地域回想法 10月8日(土)、11月13日(日)  | ②平田篤胤(2回目)               | 10月14日(金) |
| (9)土器作り教室 10月9日(日)、11月6日(日)  | ◇イベント                    |           |
| (10)初めての古文書解説<br>2月5日、2月12日、2月19日、3月5日、<br>3月12日、3月19日(いずれも日曜日)  | (1)「軒の山吹」再現              | 4月末～5月初   |
| (11)民俗学入門講座 3月4日(土)、3月11日(土)   | (2)ミュージアム・コンサート          | 令和5年3月    |
| (12)初めての藍の絞り染め(全4回)<br>5月21日(土)、6月28日(火)、6月29日(水)、<br>6月30日(木)、7月9日(土)、8月9日(火)、<br>8月10日(水)、8月11日(木・祝) | ◇ミュージアム・トーク              |           |
| (13)綿を紡ぐ<br>6月8日、7月20日、8月31日、9月28日、<br>10月26日、11月9日(いずれも水曜日)   | ◇展示付帯事業                  |           |
| (14)木工芸 木のオブジェづくり<br>ランドスケープカルプチャー 7月3日(日)   | ◇館外講座                    |           |
| (15)からむしを紡ぐ<br>7月15日(金)、7月16日(土)、10月5日(水)、<br>10月6日(木)、12月8日(木)  | (1)出前講座(県庁出前講座)          |           |
| (16)ゼロからはじめるワラ仕事<br>11月16日、11月23日、11月30日(いずれも水曜日)  | (2)出張講座                  |           |
| (17)木工芸 Christmas ornament 12月4日(日)  | (3)出前授業                  |           |
| (18)秋田の工芸 モノ考 12月4日(日)   | (4)連携講座                  |           |
|  | (5)その他                   |           |
|  | ◇県内外の博物館等類似施設との連携        |           |
|  | (1)日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会 |           |
|  | (2)秋田県博物館等連絡協議会          |           |
|  | (3)秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)  |           |
|  | ◇博物館友の会との連携              |           |
|  | ◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携   |           |
|  | ◇各種研修・実習等の受け入れ           |           |
|  | (1)博物館実務実習(大学)           |           |
|  | (2)中堅教諭等資質向上研修           |           |
|  | (3)教育センターと連携した研修         |           |

## ▶ 広報・出版

### ◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施  
展示・イベント広報  
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善  
ホームページ、フェイスブックページの充実  
プレスリリースの充実  
広報資料、出版物等の管理  
館内掲示物の管理

### ◇出版物の刊行・配布

- ・年報 令和4年度 A4判 47頁 800部
- ・博物館ニュースNo.174・175  
A4判 8頁 各2,300部

- ・秋田県立博物館研究報告第48号  
A4判 90頁 500部
- ・広報紙「真澄」No.40 A4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究第27号 A5判 100頁 500部
- ・企画展「深澤多市」展示資料解説  
A4判 12頁 800部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料  
A4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ  
企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」  
特別展「『大恐竜展』秋田－生命の鼓動を感じて－」  
企画展「秋田の縄文遺産」  
企画展「新着・収蔵資料展」

## ▶ 学習振興

### ◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用の促進
- ・展示室との連携と企画運営
- ・季節イベントや季節アイテムの計画立案
- ・体験アイテムの保守管理
- ・新アイテムの開発及び提供
- ・出張わくわくたんけん室の企画運営
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・消耗品の補充管理
- ・感染予防対策、衛生管理

### ◇学校団体の利用促進

- ・学校団体のセカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の広報及び利用の促進
- ・学校利用の集計及び報告
- ・保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の利用分析

### ◇その他、教育的支援

- ・中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動の受け入れ
- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・教員長期社会体験研修の受け入れ
- ・大学との地域連携

## ▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和4年4月1日(金)から令和5年3月31日(金)まで休館日を除いて公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間に公開をする。附属屋については、内部公開の希望に応えるために令和4

年9月30日(金)に公開し学芸職員が解説を行うほか、昔語りの会を開催するなど、適宜公開する機会を設ける予定である。

# Ⅲ 令和3年度事業報告

## 1 調査研究活動

調査研究活動が館内報告会での発表に主眼を置くような傾向があり、現状は展覧会、報告書へつながらる研究活動と言いたいものがあった。学芸職員の意見に鑑み、部門編成、調査研究活動・館内報告会の在り方などについて問題を提示した。

例年行っている調査研究報告会は、館内報告会を1月

24日に行ったが、3月19日に予定されていた一般公開の報告会は新型コロナウイルス対策のため中止となった。

「研究報告第47号」には、6件の報告が掲載された。

「真澄研究26号」には講演記録、資料紹介など3件が掲載された。

### 部門研究

#### ◇考古

(1) 「考古資料の三次元データ利用について」加藤 竜  
考古資料を対象としたデジタルデータの利活用について、概況の把握に努めるとともに、特に利用が進んでいる三次元計測の実践を試みた。

無償で提供されているSfM/MVSソフトを使用して、土偶を対象に三次元計測を実施したところ、比較的容易な撮影と機器の操作によって、精細な三次元データを得られることが確認できた。導入するソフトの選定や、機器操作の習熟、作成データの保守管理などの課題があるものの、今後の博物館における三次元データの利活用に、いくつかの見通しを得ることができた。内容については館内調査研究報告会で発表した。

(2) 「拂田柵址と深澤多市」 渡部 猛  
令和2年10月に深澤多市関係書簡が秋田県立博物館菅江真澄資料センターに寄贈されたが、その関係書簡の中で拂田柵址に関わる資料を調査した。

県史蹟調査員としての役割や秋田考古会の幹事としての秋田考古会誌拂田柵址号の編集などで深澤が重要な役割を果たしていたことが明らかになり、秋田考古会誌の原稿や秋田考古会の状況がわかる資料も確認できた。また、書簡からは、拂田柵址への思いや深澤と差出人との交流がわかり、読むべき価値があるものだった。

#### ◇歴史

(1) 「土崎湊小宿松本家の業態」 新堀道生  
当館蔵松本家資料により、幕末の小宿の経営形態を研究した。その結果、移出入取引の仲介が基本的な業務で、決済代行、注文取次、輸送取次、移出入商人への貸金などを行っていたこと、収益の中では貸金による利子収入が仲介手数料の二倍にのぼり最大のウェイトを占め、概して問屋的な業態だったことが判明した。研究成果は

『秋大史学』67号で論文として公表した。

(2) 「守屋家資料に見える城郭修補願絵図」 黒川陽介  
昨年度に引き続き、守屋家資料所収の城郭修補願絵図に関する調査を実施した。宝暦10年(1760)の絵図(久保田城)に後年になって朱書で記された「申し送り事項」からは、城絵図作成に対する藩の姿勢を読み取れることを指摘した。また寛政2年(1790)の絵図(大館城)に貼付されている付札は、当該年代とは異なる時期に発生した土居崩の記録であることを確認し、過去の修補願絵図(下絵図)が、幕府への申請終了後も藩内で「記録資料」として引き続き活用されていたものと推測した。

#### ◇民俗

(1) 「中山人形について」 丸谷仁美  
昨年度に引き続き、中山人形の変遷について調査を行った。今回は横手市公文書館に所蔵されている大澤鮮進堂関連の資料から、中山人形の制作者である樋渡義一に関する書簡の整理をした。その結果、秋田犬の保存に尽力した小野進の協力を得て犬の人形を制作したことが分かった。また、深澤多市の追悼会の際、樋渡義一が制作した多市像が提供されたことが書かれた書簡も見つかり、義一の作った像についての評価などを知ることができた。

(2) 「石川真良の業績をたどる」 深浦真人  
令和3年度の企画展「秋田野球ものがたり」において、秋田県の野球の歴史について調査した。その中から、甲子園大運動場(現・甲子園球場)の建設に尽力し、「甲子園の土の生みの親」と呼ばれた石川真良について調査研究報告をした。特に石川の学生時代に焦点をあて、野球に対する社会の動向(秋田県でのチャレンジカップの創設、「ベースボール」取締に関する通達、早慶戦の中止、「野球害毒論」等)を示しながら、石川の業績を紹介した。

#### ◇工芸

##### (1)「中山人形『塙保己一像』補修作業報告」山本丈志

民俗部門からの依頼により、秋田県視覚支援学校蔵の中山人形『塙保己一像』の補修を行い、その作業工程を記録した。この像は昭和58年の日本海中部沖地震で破損したもので、すでに学校職員により何度か補修されているものだった。この際の補修はボンドによる接着やガムテープなどによる固定であり、欠損部分は欠けたままである。そしてテープの経年劣化により粘着剤の固着と変色が進み、汚れも付着していた。これらの問題に対し、クリーニング、欠損部分の成形、亀裂の充填、補彩の作業を行った。補修が完了して学校に返却した際には学校職員と当館職員による人形の学習会が開かれている。

##### (2)「秋田県内における漆工に関する調査～紫塗～」

藤原尚彦

紫塗は明治から大正時代に旧仙北郡太田町（現大仙市）で生産された漆器で、創始者である倉田維一一代限りで技術は途絶えている。当館で所蔵している資料は1点のみであり、紫塗は県南地域を中心に高い評価を得ながらもその製作に関わる情報が極めて少なく、また、他に現存する資料の所在情報がないこと等から調査を行った。

文献調査や地元の関係者等からの聞き取り調査による情報をもとに、大仙市太田公民館に保管されている製作工程見本等と推察される資料14点および個人所有の紫塗として伝えられている製品2点の所在を確認し来歴や保存状況等についてまとめた。

##### (3)「能代春慶—明治期におけるデザインの動向—」

齊藤洋子

秋田県を代表する工芸品の一つ、能代春慶の起源は江戸時代17世紀後半といわれている。能代市教育委員会で保管している能代春慶を調査すると、江戸から明治期にかけて、デザインに変化がみられる。秋田県公文書館に保管された当時の公文書と現存資料との照合を行ったところ、明治政府管轄の博覧会事務局と7代石岡庄寿郎がデザインについて双方で検討していることが明らかとなった。能代春慶は明治期の海外博覧会への出品をきっかけとして、輸出向けのデザインを取り入れていたことが確認できた。今回の調査の成果は、今後研究報告に反映させる。

#### ◇生物

##### (1)「金足地区の鳥類相」

池端広樹

金足地区周辺で見られる野鳥について調査を行った。この地区にある小泉潟公園の女潟や男潟は、毎年ガンカモ類の渡りの中継地として重要な働きをしている。そのため渡りの始まる10月から潟が凍結する1月までは水鳥の観察を行った。また周辺の水田は、越冬地に向かうコハクチョウやマガンの採餌場となることから、周辺地域についても巡回を行った。12月には東北でも報告例の少ないアメリカコハクチョウも確認し撮影を行うことができた。

今年は金足地区も例年より積雪が多く、3月に入っても繁殖地に帰るガンカモ類の利用ができない状態が続いた。今後も周辺の留鳥も含め、継続して観察を行ってみたい。

##### (2)「秋田の外来生物」

藤中由美

『外来生物—運ばれる生き物たち—』の企画展示にあたり、秋田県に生息する外来生物とその現状を調査した。秋田に生息する外来生物については、秋田自然史研究の報告を中心に文献調査を行い、展示で扱う分類群は動物、植物すべてを対象とした。特に外来種の多い植物分野と水生生物分野については野外調査を主とした。県内の植生調査、森吉山鳥獣保護区におけるオオハンゴンソウの防除作業への参加、水生生物調査への同行等を通して得た知見は、企画展と館内報告会で紹介した。

#### ◇地質

##### (1)「球状炭酸塩コンクリーションの炭素の起源について」

渡部 均

球状炭酸塩コンクリーションの成因研究の一環として、秋田県大仙市の天徳寺層から産出した、貝化石を含む4個の球状炭酸塩コンクリーションについて、それぞれの炭素量を測定した。その測定値を、貝化石の軟体部に含まれていた炭素量（見積もり値）と比較したところ、いずれの場合もコンクリーション中の炭素の方が圧倒的に多いという結果が得られた。つまりコンクリーションに含まれる炭素は、内部の貝化石だけではなく、それ以外から多く供給されたと考えられる、ということである。コンクリーション内部や表面には、海底に生息する軟体動物のものと思われる生痕化石が多くみとめられることから、それらの動物の関与を考慮したコンクリーションの成因を検討中である。

(2)「館蔵の恐竜関連資料」 大森 浩  
令和4年7月から実行委員会形式で「大恐竜展」を開催する。これに向けて、館が所蔵する恐竜関連資料をリストアップした。またこれら関連資料について羽毛の色や孵化する直前の胚が見つかった卵化石など近年の研究成果を調査した。調査については館内で報告するとともに、ともに実行委員会となる秋田テレビや展示業者とも情報共有し展示等に活用していきたい。

◇秋田の先覚記念室

(1)「近江谷栄次・小牧近江関係資料について」 三浦たみ子  
秋田市土崎で活躍した事業家・近江谷栄次とその息子で雑誌『種蒔く人』創刊者の一人である小牧近江の二人について、関係資料の調査を行った。栄次の生家である八郎潟町の畠山家、事業に関係する法人や団体、小牧が卒業した小学校、秋田県立図書館、秋田公文書館、あきた文学資料館等を調査した。

栄次の事業関係の資料として銀行株券や県提出書類、広告や自費出版物を見出すことができた。また小牧に関しては、小学校の名簿、パリ留学時の書簡、大使館勤務や仏領インドシナ駐在時の資料等、文芸関係以外にも様々な資料を確認することができた。栄次が行った事業については、資料に乏しく不明な部分が多く、今後の調査等で判明することを期待したい。

◇菅江真澄資料センター

(1)「展示公開に向けた深澤多市資料の整理」松山 修  
深澤多市は、中世に県南を領知した小野寺氏の研究と『秋田叢書』の刊行で知られる郷土史家である。『秋田叢書』が昭和初期における菅江真澄全集でもあることから、旧蔵資料が令和2年(2020)6月、菅江真澄資料センターに寄贈された。一万通は優に超える書簡をはじめとして、

秋田叢書の原稿、知人との交流を示す資料などについて、資料を内容別、蔵書、年代別書簡、遺墨などに分類するなどした。さらに、展示の仮構成に基づき、資料の読み込みをおこなった。今年度末までの整理に基づき、令和4年度春に企画展をおこなう予定である。

(2)「真澄が記録した雨乞習俗について」 角崎 大  
真澄は各地を訪れた際に見聞きした「雨乞習俗」について多くの記録を残している。人々が行っていた多種多様な雨乞に真澄は大いに興味を惹かれ、自身の知識と照らし合わせて、あれこれと考察を巡らせた。そうした真澄が記録した雨乞習俗について整理し、令和3年10月16日～12月5日に「真澄の記録に見る雨乞習俗」と題して企画コーナー展を開催した。真澄が記録した39件の雨乞習俗を、展示では5つの項目に類型化し、「雨乞和歌」「雨乞の面」「雨乞の石」「強請(ごうせい)雨乞」「雨乞奇談」といった具体的な事例を挙げながら紹介した。

◇博物館学的研究

(1)「先覚収蔵庫等の整理方法の検討と実践」 安田ゆきこ  
先覚収蔵庫には先覚者毎の資料コンテナがあり、常設展示と同じ4分野で区別して棚に配置、整頓されている。しかし、そのコンテナ内は「資料」「補助資料」「別の先覚者の資料」等と一緒にたどられているものが少なくない現状であることがわかった。

本研究では可能な範囲で資料等の仕分けを行い、受入番号が明記されていないものには中性紙封筒や薄葉等の梱包部分に記入したり写真を貼付したりしていった。また、収蔵庫等内の各種物品の所在確認をしやすいように配置図を作成中である。

▶ 調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を令和4年1月24日(月)に当館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである(報告順)。

- 1 先覚収蔵庫等の整理方法の検討と実践 安田ゆきこ
- 2 拂田柵址と深澤多市 渡部 猛
- 3 球状炭酸塩コンクリーションの炭素の起源について 渡部 均
- 4 金足地区の鳥類相 池端広樹
- 5 中山人形「塙保己一像」補修作業報告 山本丈志
- 6 石川真良の業績をたどる 深浦真人

- 7 秋田の外来生物 藤中由美
- 8 能代春慶一明治期におけるデザインの動向一 斉藤洋子
- 9 館蔵の恐竜関連資料 大森 浩
- 10 真澄が記録した雨乞習俗について 角崎 大
- 11 秋田県内における漆工に関する調査～紫塗～ 藤原尚彦
- 12 中山人形と八橋人形について 丸谷仁美
- 13 考古資料の三次元データ利用について 加藤 竜
- 14 守屋家資料に見える城郭修補願絵図 黒川陽介

- 15 近江谷栄次・小牧近江関係資料について 三浦たみ子  
 16 深澤多市旧蔵資料の整理（絵葉書） 松山 修  
 17 佐竹氏の肖像画について 新堀道生

◇調査研究報告会（公開報告会）  
 標記の会を令和4年3月19日（土）に当館講堂にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止となった。

▶ 研究報告等の発行

- ◇『研究報告』第47号  
 ・秋田県男鹿半島安田の後期更新統潟西層から得られたスケトウダラの耳石 大江文雄・渡部 晟・渡部 均  
 ・秋田県八峰町八森小入川産の植物化石 五井昭一・渡部 均  
 ・中山人形と横手人形―樋渡義一の活動を中心に― 丸谷仁美  
 ・中山人形「埴保己一像」補修作業報告 山本丈志
- ・守屋家資料の城郭修補願絵図―秋田藩における修補申請の実態― 黒川陽介  
 ・名誉館長館話実施報告抄 新野直吉
- ◇『真澄研究』第26号  
 ・菅江真澄の和歌と地名―信濃の旅から― 石井正己  
 ・現代語訳《ふでのまにまに》第二巻 嵯峨彩子  
 ・真崎文庫内叢書における真澄遺墨及び関係資料写文の翻刻 松山 修

2 資料収集管理活動

令和3年度中に寄付等で新たに登録された資料は36件442点であった。

今年度も収蔵庫の点検と整理に努めている。3F収蔵庫は冬季に入るとたびたび壁際に結露が見られ、カビ発生の要因とならないよう拭き取りを指示した。収

蔵庫燻蒸をよい機会ととらえ、大量の資料搬入は燻蒸期間前とすることにし、小型燻蒸釜の使用を控えることにした。現在、植物標本の殺虫のために冷凍庫の導入を検討している。

▶ 資料収集・整理・保存・管理

◇令和3年度収集資料一覧

| 部門 | 資料名          | 数量 | 受入区分 |
|----|--------------|----|------|
| 総集 | DVD          | 1  | 寄付   |
| 工芸 | 高田箕水篆刻関係資料一式 | 81 | 寄付   |
| 歴史 | 秋田臨海鉄道資料     | 1  | 寄付   |
|    | 雄勝郡山田村中島家文書  | 1  | 寄付   |
|    | 小野寺氏関係文書     | 4  | 寄付   |
|    | 佐竹系図、武田系図    | 2  | 寄付   |
|    | 乗合馬車券 ほか     | 6  | 寄付   |
|    | アスファルト       | 1  | 寄付   |
| 考古 | 縄文土器         | 1  | 寄付   |
| 民俗 | 自在鉤          | 1  | 寄付   |
|    | 襟巻き（2）、熊の脂   | 4  | 寄付   |
|    | 鍾馭図 ほか       | 2  | 寄付   |
|    | 絵葉書 ほか       | 4  | 寄付   |
|    | 迷子札 ほか       | 67 | 寄付   |
|    | 天神人形、雛人形     | 1  | 寄付   |
|    | 天神人形 ほか      | 12 | 寄付   |
|    | ブラウス ほか      | 4  | 寄付   |
|    | 風呂鍛など        | 5  | 寄付   |
|    | 八橋人形         | 5  | 寄付   |
|    | 熊の敷物         | 1  | 寄付   |

| 部門     | 資料名         | 数量  | 受入区分 |
|--------|-------------|-----|------|
| 生物     | 深海松         | 1   | 寄付   |
|        | ゴミアシナガサシガメ  | 1   | 寄付   |
|        | アライグマ剥製 ほか  | 3   | 委託製作 |
|        | ヒラタブンプク     | 2   | 寄付   |
|        | ハネビロエゾトンボ   | 2   | 寄付   |
|        | シラカミヌレチゴミムシ | 6   | 寄付   |
| 考古     | 小坂鉱山産鉱物 ほか  | 70  | 寄付   |
|        | 化石標本        | 12  | 採集   |
|        | 菱沸石         | 2   | 寄付   |
|        | フジツボ化石      | 1   | 寄付   |
|        | 北投石         | 1   | 保管転換 |
|        | スケトウダラの耳石化石 | 1   | 寄付   |
| 先覚     | 植物化石        | 48  | 寄付   |
|        | 植物化石        | 50  | 採集   |
|        | 小西正太郎絵画     | 1   | 寄付   |
|        | 内藤湖南書 ほか    | 10  | 寄付   |
| 合計（件数） |             | 442 | (36) |

◇令和3年度資料収集状況

令和4年3月末日現在の資料総数 ( )は令和3年度分

|    | 購入            | 寄付               | 委託製作         | 所管換え       | 採集             | その他       | 合計               |
|----|---------------|------------------|--------------|------------|----------------|-----------|------------------|
| 総集 | 2,917         | 226<br>(28)      | 626          | 18         | 0              | 0         | 3,787<br>(28)    |
| 美術 | 415           | 25               | 2            | 8          | 0              | 0         | 450              |
| 工芸 | 7,371         | 6,411<br>(81)    | 1            | 13         | 0              | 0         | 13,796<br>(81)   |
| 歴史 | 5,125         | 3,681<br>(15)    | 113          | 184        | 0              | 73        | 9,176<br>(15)    |
| 考古 | 245           | 2,176<br>(1)     | 31           | 190        | 0              | 0         | 2,642<br>(1)     |
| 民俗 | 2,280         | 8,207<br>(106)   | 120          | 36         | 4              | 0         | 10,647<br>(106)  |
| 生物 | 17,345        | 99,035<br>(12)   | 7,739<br>(3) | 36         | 1,658          | 0         | 125,813<br>(15)  |
| 地質 | 3,556         | 3,363<br>(122)   | 1,408        | 19<br>(1)  | 9,344<br>(62)  | 0         | 17,690<br>(185)  |
| 先覚 | 131           | 5,438<br>(11)    | 12           | 0          | 0              | 2         | 5,583<br>(11)    |
| 真澄 | 143           | 1,779            | 11           | 300        | 0              | 0         | 2,233            |
| 合計 | 39,528<br>(0) | 130,341<br>(376) | 10,03<br>(3) | 804<br>(1) | 11,006<br>(62) | 75<br>(0) | 191,817<br>(442) |

◇令和3年度資料特別利用状況

目的別

| 利用者   | 県内外別  |    |     | 目的別 |    |       |      |      |      |     |   |
|-------|-------|----|-----|-----|----|-------|------|------|------|-----|---|
|       | 県内    | 県外 | 計   | 出版物 | 映像 | 広報・HP | 市町村誌 | 展示資料 | 研究資料 | その他 |   |
| 博物館   | 都道府県立 | 1  | 1   | 2   | 0  | 0     | 1    | 0    | 1    | 0   | 0 |
|       | 市町村立  | 2  | 3   | 5   | 3  | 0     | 0    | 0    | 3    | 0   | 0 |
|       | その他   | 0  | 1   | 1   | 0  | 0     | 0    | 0    | 1    | 1   | 0 |
| 企業    | 出版    | 3  | 30  | 33  | 32 | 0     | 1    | 0    | 0    | 1   | 0 |
|       | 映像    | 0  | 4   | 4   | 0  | 4     | 0    | 0    | 0    | 0   | 0 |
|       | T V   | 5  | 4   | 9   | 0  | 10    | 0    | 0    | 0    | 0   | 0 |
| その他   | 4     | 2  | 6   | 0   | 0  | 3     | 0    | 2    | 2    | 1   |   |
| 教育機関  | 大学    | 0  | 4   | 4   | 1  | 0     | 1    | 0    | 0    | 1   | 1 |
|       | その他   | 0  | 1   | 1   | 1  | 0     | 0    | 0    | 0    | 0   | 0 |
| 国都道府県 | 2     | 0  | 2   | 1   | 0  | 0     | 0    | 1    | 0    | 0   |   |
| 市町村   | 14    | 3  | 17  | 7   | 0  | 2     | 1    | 4    | 2    | 1   |   |
| 個人    | 16    | 11 | 27  | 9   | 0  | 5     | 0    | 0    | 9    | 4   |   |
| 計     | 47    | 64 | 111 | 54  | 14 | 13    | 1    | 12   | 12   | 7   |   |

◇令和3年度館蔵資料貸出状況

| 貸出先      | 県内外別 |    |   | 目的別 |    |    |    |   |
|----------|------|----|---|-----|----|----|----|---|
|          | 県内   | 県外 | 計 | 展示  | 研究 | 教材 | 資料 | 計 |
| 博物館等     | 3    | 2  | 5 | 5   |    |    |    | 5 |
| 教育機関     | 大学   |    | 1 | 1   |    | 1  |    | 1 |
|          | 高等学校 |    |   |     |    |    |    | 0 |
|          | 中学校  |    |   |     |    |    |    | 0 |
|          | 小学校  | 1  |   | 1   |    |    | 1  | 1 |
| その他      |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| 研究所・文化団体 |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| 出版報道機関   |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| 都道府県     |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| 市町村      | 1    |    | 1 | 1   |    |    |    | 1 |
| 個人       |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| その他      |      |    |   |     |    |    |    | 0 |
| 計        | 5    | 3  | 8 | 6   | 1  | 1  | 0  | 8 |

部門別

| 部門  | 利用数 | 利用内容 |      |       |      |      |      |     |
|-----|-----|------|------|-------|------|------|------|-----|
|     |     | 写真撮影 | 写真掲載 | 画像等貸与 | 映像録画 | 館内閲覧 | 画像転載 | その他 |
| 工芸  | 2   | 0    | 2    | 0     | 0    | 0    | 2    | 0   |
| 考古  | 13  | 7    | 9    | 6     | 1    | 2    | 0    | 3   |
| 歴史  | 26  | 0    | 22   | 11    | 2    | 0    | 12   | 0   |
| 民俗  | 15  | 1    | 13   | 10    | 3    | 0    | 2    | 0   |
| 生物  | 2   | 0    | 1    | 1     | 0    | 0    | 1    | 0   |
| 地質  | 1   | 1    | 1    | 0     | 1    | 0    | 0    | 0   |
| 先覚  | 8   | 1    | 8    | 5     | 1    | 0    | 2    | 0   |
| 真澄  | 43  | 0    | 37   | 33    | 2    | 0    | 8    | 0   |
| その他 | 1   | 0    | 0    | 1     | 0    | 0    | 0    | 0   |
| 計   | 111 | 10   | 93   | 67    | 10   | 2    | 27   | 3   |

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。  
 ※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

▶ データベース化の推進

現在は秋田県立図書館のデジタルアーカイブで提供されているコンテンツだけである。今年度「秋田県立博物館デジタルビジョン」を策定し、博物館独自のデジタルアーカイブ構築を目指して動き出した。秋田県立図書館

のアーカイブは画像と基礎データだけであり、当館が目指す教育と直結連携を目指す解説コンテンツとは異なる。今後は両者を並立してデジタルアーカイブの充実を図っていく。

▶ 燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は令和3年8月23日(月)～8月30日(月)、アルプ(酸化プロピレン)を使用し、3階収蔵庫のうち生物・民俗収蔵庫と、真澄収蔵庫を燻蒸した。秋博協加

盟館から受け入れた燻蒸資料も同時に燻蒸した。小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により燻蒸した。年度内の稼働回数は5回であった。

### 3 展示活動

令和3年度もコロナウイルス感染拡大を受け、ギャラリートーク、講演会の中止や延期、リモート開催などいろいろな制約がある中、展覧会を行ってきた。

企画展「美の國の名残」は収蔵資料を美の観点から紹介したもので、展示方法にも工夫をこらし、民俗・歴史資料を美術品として展示した。また収蔵庫に眠ったままの美術資料を綿密に調査し興味深い新事実を紹介した。

企画展「秋田野球ものがたり」は秋田県における野球通史を紹介した。野球ファンのみならず、昔を懐かしむ大人たちにも好評であった。

特別展「佐竹氏遺宝展」は天徳寺所蔵の佐竹家資料、

千秋文庫所蔵の文献資料を中心に秋田を治めた佐竹家の歴史を紹介した。コロナ禍で来場者数は予定より下回ったものの来場者の関心は高くカタログは好評で会期中に売り切れるほどだった。

企画展「外来生物」は来場者に意外な動植物が外来であるという事実を提示し、展覧会を通して秋田の自然環境について関心を高める契機となったようである。

今年度は初めて秋田魁新報社と特別展の実行委員会を組み、業務提携を行った。コロナ禍にあっても十分な広報効果があったと思われ、来年度以降の特別展の指標となった。

#### 企画展ほか

◇企画展「美の國の名残－博物館の審美眼」 令和3年4月29日（木・祝）～6月27日（日）

##### <展示概要>

博物館の美術部門は平成6年に秋田県立近代美術館へ移管されたが、わずかな美術品が歴史・民俗資料として博物館に残されていた。これらの美術品を再調査し、歴代学芸員がなぜこれらを選び収集したのか、彼らの審美眼へのオマージュとして展覧会を企画した。加えて、人々が創り使う中でこだわり続けた美意識を民俗、工芸、歴史部門の資料から見だし紹介した。

##### <展示構成と主な資料>

第一章 鄙のあたり 主に民俗部門から人々が創り出した道具の美しさを紹介

木刀（きがたな）、金工用木型、竿秤、奉納用足型など

第二章 書画の時代 博物館で所蔵している書画を紹介

伝椿椿山「平田篤胤像」紙本墨画淡彩

作者不詳「後三年合戦絵巻」紙本墨画淡彩

「寺崎廣業印譜」紙本墨画墨書 押印90顆

第三章 ちいさきもの 小さな美術品や遺愛品を紹介

小室怡々齋「騎馬武者像」木彫・彩色

田中龍山「柿形香炉」銅、金・漆

「阿弥陀如来像」木彫・金箔

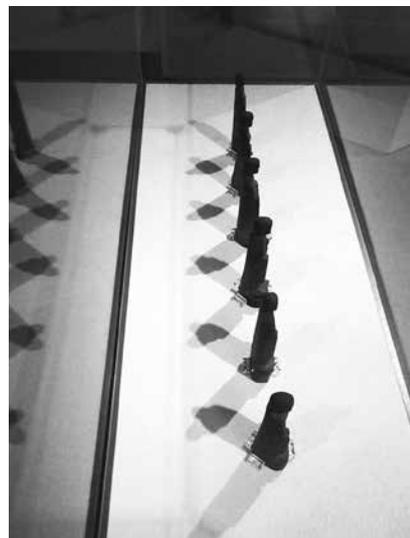
展覧会の準備にあたり、美術品の悉皆調査を行い、民俗・歴史部門より美術資料などの情報を提供してもらいながら出展資料を選抜した。展覧会の構成立案、原稿執筆、広報物のデザイン、キャプションの制作、資料の展示及びライティングまでの作業は単独で行い、大きな展示台や資料の移動など1人で行えない作業のみ館員に協力を仰いだ。

この展覧会ではコンセプトを説明するために、総括し

た挨拶文とアプローチが違う三章の各論を4枚のキャプションパネルのみで掲示した。それは展示室内のキャプションを減らし、展示資料を集中して見ていただく配慮からで、別に全展示資料の解説パンフレット（A4、12頁）、解説シート（13枚）を用意した。

また展示レイアウトではできるだけ仮設壁、システムパネルなどを使用せず、展示室本来の空間と附属の展示器具だけで構成するよう心がけた。資料の形状に合わせて展示台を変型させたり、スポットライトの照射でできる影の形に配慮したり、美術館の展示方法を導入した。

展示にあたり、展示資料のクリーニングも行った。例えば阿弥陀如来像は煤と埃がびっしりと貼りつき、本来の金箔貼りがわからないくらいだった。



担当：山本丈志（工芸）

◇企画展「秋田野球ものがたり」 令和3年7月17日(土)～8月22日(日)

<展示概要>

平成30年8月、第100回全国高等学校野球選手権記念大会で、秋田県立金足農業高等学校が準優勝し、秋田県民はもとより全国的にも大いに盛り上がった。また、全国高等学校野球選手権大会の前身である第1回全国中等学校優勝野球大会では、秋田中学(現・秋田県立秋田高等学校)が準優勝した。100回以上の歴史ある大会で、第1回と第100回大会での準優勝。今回の企画展では、そのことも含めて秋田県の野球の歴史や野球を通じた地域活性化の取り組みを紹介した。

また、タイトルの「秋田野球ものがたり」の「ものがたり」をあえてひらがなにしたのは、各資料の前に立ってその資料から係わった人々の思いを感じてほしいとの願いを込めた。

<展示構成>

第1章 秋田の野球あれこれ

日本にベースボールが伝わったのが、1872年(明治5)。その後、秋田県にも次第に野球が広まっていった。大正から昭和20年代にかけての話題を紹介した。「ベースボール」を「野球」に翻訳した中馬庚ちゅうまのえの大館中学(現・秋田県立大館鳳鳴高等学校)校長時代の写真や昭和初期のミットを展示した。

第2章 白球を追いかけて

少年野球から高校野球まで球児が、ひたむきに白球を追いかけた思いを資料を通して紹介した。資料として「甲子園の土の生みの親」と呼ばれた石川真良の愛用したバットや石川が著した「野球十訓」、平成11年に集めた甲子園の土、第100回全国高等学校野球選手権記念大会の準優勝盾、全国大会に出場した県内各高校のユニフォームを展示した。

第3章 頂点めざして

平成18年の都市対抗野球大会で優勝したTDK硬式野球部の黒獅子旗やプロ野球史上初の3年連続MVP(最優秀選手賞)に輝いた山田久志投手、同じく史上初の三度の三冠王を獲得した落合博満選手の関連資料を展示した。

第4章 生活の中の野球

野球は、球場やグラウンドで行われるだけでなく、様々な形で生活の中に取り入れられてきた。野球に関連した漫画、ゲーム、カードを展示し、野球を身近に感じてもらった。

第5章 野球とともに

生涯野球を続けたいという人々の思いが結実した一例として500歳野球大会がある。高齢者の野球を通じた健康づくり、地域間交流など、秋田の野球の近年の動きを紹介した。



担当：深浦真人(民俗)

◇特別展「佐竹氏遺宝展—守り継がれた大名家資料—」 令和3年9月18日(土)～11月14日(日)

<展示概要>

秋田魁新報社と遺宝展実行委員会を構成し、東京大学史料編纂所の協力を得て開催した。当館の佐竹氏資料の展示会としては「佐竹家260年展」以来42年ぶりの開催となった。千秋文庫(東京)所蔵の佐竹文書、天徳寺所蔵の遺品類、秋田市立佐竹史料館所蔵の佐竹氏資料、秋田県立図書館所蔵の書画等102点を展示した。コロナ感染症流行のさなかではあったが、6,329人の観覧者があった。図録410冊が会期終了2週間前に完売するなど、佐竹氏に対する県民の関心の高さが示された。

<主な展示資料>

天徳寺所蔵 佐竹侯累代の肖像、絹本着色八幡太郎義家肖像、源氏物語図屏風、光源院直姫所用花菱扇紋散蒔絵文台・硯箱、霊岳院育姫所用梨子地葵紋唐草蒔絵祝膳

千秋文庫所蔵 足利直義御教書、豊臣秀吉朱印状、徳川家康御内書、島田利正書状、土井利勝書状

秋田市立佐竹史料館所蔵 伝佐竹義真所用本小札紺糸絨二枚胴具足 銀象眼花菱内鉄菊水之鏡

八幡秋田神社所蔵 伝佐竹義宣所用伊予札黒韋素懸絨二

## 枚胴具足

秋田県立図書館所蔵 佐竹曙山筆風竹虎図  
湯沢市所蔵 扇紋蒔絵飲食器（佐竹南家関係資料）  
大館郷土博物館寄託 虎皮投鞘



担当：新堀道生（歴史）

◇企画展「外来生物—運ばれる生き物たち—」 令和3年12月4日（土）～令和4年4月3日（日）

### <展示概要>

産業活動の発展とグローバル化が進んだ現代において私たちは前代未聞のさまざまな問題に直面している。その一つが外来生物問題である。外来生物は「在来生物を駆逐する恐ろしい生き物」としての側面がクローズアップされるが、どのような経緯で運ばれてきたのかについては一般的にあまり知られていない。本展示では外来生物がどのような経緯で導入されたのかに焦点を当て、外来生物とは何か、引き起こされる問題は何かを考えてもらう展示を目指した。

### <展示構成>

#### 第1章 島国日本と外来生物

史前帰化種や国内外来種など外来生物のさまざまな姿を紹介した。外来生物法（特定外来生物による生態系等に被害の防止に関する法律）における「外来生物」の考え方について紹介した。

#### 第2章 障壁を越える

日本各地で問題となっているセイヨウオオマルハナバチ、ウチダザリガニ、アメリカミンク、ヌートリア、アライグマなどの外来生物が輸送手段や産業活動の発展等人間との関わりの中でどのように導入されたのか、特定外来生物に指定されているものを中心に導入経緯を紹介した。当時の時代背景と関連付けて紹介するよう努めた。

#### 第3章 秋田の外来生物

本章では、主に昆虫、植物、陸水域に生息する水生生物、海産貝類について、これまで秋田県内で確認された外来生物を紹介した。県内では未確認であるものの、近隣県の状況を鑑みて秋田への侵入が懸念される生物（アライグマ、セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、ソウシチョウ、ガビチョウ）の他、世界各地で甚大な被害を及ぼしてい

るヒアリ等外来アリを紹介した。

#### 第4章 生物多様性を守る

生物多様性がどのように危機的であるかということは、日常生活の中ではわかりにくい。日本由来の生物が海外において侵略的外来生物となっている例や、秋田県内で行われている絶滅危惧種の保全活動や外来種の駆除活動を紹介することで、外来生物問題が日本だけの問題ではないこと、我々の身近なところで起きている問題であることに気づいてもらえるよう努めた。



### <付帯事業>

1月：ミュージアムトーク（1月8日（土）午前・午後  
1月9日（日）午前・午後、計4回実施）

2月：2月5日（土）、2月19日（土）に予定されていた「マツノザイセンチュウの観察会」は新型コロナウイルス感染防止のため中止

3月：3月13日（日）に予定されていた杉山秀樹氏の講演会は新型コロナウイルス感染防止のため中止

担当：藤中由美（生物）

## ◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

### 〔第 85 回企画コーナー展〕

#### 大館・真崎文庫の真澄関連資料

令和 3 年 7 月 10 日（土）～ 9 月 5 日（日）

大館市立栗盛記念図書館が蔵する真崎文庫は、明治から大正にかけて郷土史家として名を成した真崎勇助が収集した資料群である。真崎文庫には、菅江真澄の自筆資料である「菅江真澄著作」（県指定文化財）があるほか、秋田県の歴史や文化にかかわる貴重な資料が含まれている。真澄関連としては、県指定文化財への注目が大きかったが、大館市指定文化財（県指定文化財以外の文献資料）の中にも真澄の自筆を含む資料があることは、当館によるこれまでの調査で明らかにしてきたところである。また、真澄研究史上で取り上げられてきた資料もある。展示では、大館市指定文化財であるそれらの資料について、詳しい解説を付けて紹介した。



＜展示構成＞①自筆を含む資料、②記録された真澄、③写された真澄資料

＜展示資料＞13 点（以下、資料名のみ記す）

①乙随筆、黒甜瑣語稿（一部）、祝詞、六郡郡邑記、芳園拾遺（一）、群書類従、雄平仙河秋山補陀落巡拝古跡記

②おほまあらこ、やみ津々理八、覚書、山入始末并考、筆まかせ一編五巻

③道草

担当：松山 修（真澄）

### 〔第 86 回企画コーナー展〕

#### 真澄の記録に見る雨乞習俗

令和 3 年 10 月 16 日（土）～ 12 月 5 日（日）

真澄は各地を巡っていた際に、降雨を願って行われる「あまごい雨乞」にまつわる様々な事柄を見聞きした。本展では、

そうした真澄の記録に見られる各地で行われていた多種多様な雨乞習俗に焦点を当てて紹介した。灌漑設備が整った現代にあっても、しばしば干ばつ被害のニュースを目にする。ましてや設備の整っていない時代、雨が降らないことに対する人々の不安は、いかばかりであったろうか。真澄の記録にある「雨乞習俗」というフィルターを通して、当時の人々の生活について知り、思いを巡らせる契機となった展示であった。

＜展示構成＞①雨乞の類型化、②雨乞和歌、③雨乞の面、④雨乞の石、⑤強請雨乞、⑥雨乞奇談

＜展示資料＞11 点（以下、資料名のみ記す）

②粉本稿、小野のふるさと③真山神社宝物二面之画

④月の出羽路仙北郡 1 巻・10 巻、倭訓栞、水晶実物

⑤月の出羽路仙北郡 7 巻、男鹿の春風、栖家の山

⑥弥重郎の竜（紙芝居映像）

担当：角崎 大（真澄）

### 〔第 87 回企画コーナー展〕

#### 真澄が暮らしたまち－秋田市－

令和 4 年 3 月 19 日（土）～ 5 月 15 日（日）

およそ 46 年間、各地を巡り歩き、旅に生きた真澄であったが、中には数年に亘って滞在した土地もあった。じっくりと腰を据え、周辺の様子を記録したり、多くの人々と交流したりしながら、様々な著作を残した。そうした土地の中から、本展では秋田市に焦点を当てた。秋田市における真澄の足跡を辿り、真澄の残した著作の中から、いくつかを抽出して紹介した。一つの場所に長く居たからこそ見聞できたこと、記録できたことが真澄にはあった。そうした真澄の視点から浮かびあがる、真澄が暮らしたまち、当時の秋田市の姿に迫る展示となった。

＜展示構成＞①秋田市における真澄年表、②真澄が記録した秋田市の風景（日記・図絵集）、③秋田市定住の恩恵（随筆）、④秋田市での真澄の住まい、⑤人物紹介

＜展示資料＞18 点（以下、資料名のみ記す）

②雪の道奥雪の出羽路、男鹿の秋風、軒の山吹、勝手の雄弓、水の面影、月のおろちね、勝地臨毫秋田郡 1～4、花のいではち松藤日記、勝地臨毫河辺郡 1

③しのはぐさ、花のしぬのめ、久保田の落ち穂、さくらがり下

④筆のまにまに 1、筆のしがらみ

担当：角崎 大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「近江谷栄次と小牧近江 父子の軌跡」

令和3年9月25日(土)～11月28日(日)

<展示概要>

今年度の企画コーナー展では、土崎の地を中心に活躍した事業家・近江谷栄次と、その息子で雑誌『種蒔く人』の創刊者として著名な文学者・小牧近江の親子二人について取り上げた。本年(2021年)は、『種蒔く人』土崎版創刊から100年となる。

本展では、父子それぞれの生い立ちから、異なる分野に残された足跡を、資料展示と解説パネルで紹介した。展示資料は、栄次については事務文書や広告、株券等、事業に関わる資料を中心として構成した。小牧については、雑誌『種蒔く人』創刊者3人の名が並んだ小学校の名簿、パリ留学時の書簡、著作原稿、仏領インドシナ駐在時の資料、大学教員関係資料等、経歴に沿った展示を行った。その他、栄次や小牧が、外地から家族へ宛てた書簡など、合わせて55点の資料を展示した。

本展の開催にあたっては、近江谷栄次生家畠山家、株式会社秋田銀行、秋田市立土崎小学校、土崎幼稚園、秋田県立図書館、秋田県公文書館、あきた文学資料館に御協力いただいた。

<展示構成>

【父-近江谷栄次】

1. 生い立ち
2. 近江谷栄次の事績
3. 栄次と井堂

【子-小牧近江】

1. 生い立ち
2. パリ留学
3. 『種蒔く人』
4. 文学と外交と
5. 戦後の小牧近江

<付帯事業>

秋田の先覚記念室講演会「『種蒔く人』創刊100周年記念 父・近江谷栄次 子・小牧近江」

10月31日(日)14:00～15:30

講師：北条常久氏(県生涯学習センターシニアコーディネーター／あきた文学資料館名誉館長)

コロナ禍の状況下にもかかわらず、約50名の方に御参加いただいた。

担当：三浦たみ子(先覚)



◇可変展示

〔人文展示室〕

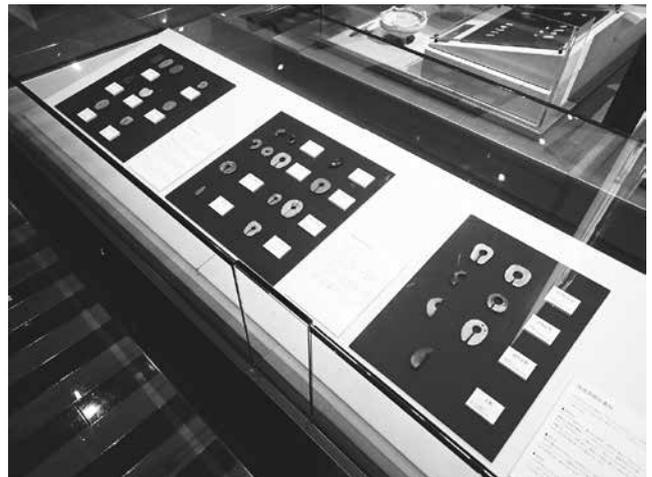
「蓑虫山人と考古資料」

令和3年4月2日(金)～8月11日(水)

明治時代に制作された画帖『蓑虫山人画記行』は、当時の風景や習俗が描かれていることに加え、考古資料の記録としても貴重な作品である。本作を通して、本県における考古学黎明期の状況を紹介する展示とした。展示期間を前期(5月30日まで)と後期(6月1日から)

に分け、前期には人面付環状注口土器に関する図画を、後期には佐藤初太郎旧蔵資料とそれに関する図画を展示した。

<展示資料>画帖『蓑虫山人画記行』より人面付環状注口土器の図、狐森発掘の図、佐藤初太郎寄宿舍古物一覧之図、佐藤初太郎所蔵品の4点、佐藤初太郎旧蔵考古資料より異形石器4点、石棒2点(全て当館蔵)



担当：加藤 竜（考古）

### 「块状耳飾」

令和3年8月12日（木）～令和4年7月31日（日）  
縄文時代早期から中期にかけて盛行した块状耳飾について、県内出土の優品及び未製品を展示し、この装身具についての理解を深める機会を創出した。また、展示の開始に合わせて秋田魁新報の連載「すいよう学芸館」へ块状耳飾に関する記事を投稿し、周知を図った。

＜展示資料＞片野Ⅰ遺跡・龍門寺茶畑遺跡・ヲフキ遺跡・潟前遺跡・下田遺跡・白館跡出土石製块状耳飾（秋田県埋蔵文化財センター蔵）、湯ノ沢B遺跡出土土製块状耳飾（秋田市教育委員会蔵）、提鍋遺跡出土石製块状耳飾（由利本荘市教育委員会蔵）、上ノ山Ⅱ遺跡出土石製块状耳飾及び未製品（大仙市教育委員会蔵）、小阿地出土石製块状耳飾（当館蔵）合計28点

### 〔ふるさとまつり広場〕

今年度は、民俗部門が季節ごとにテーマを決め、秋田の風俗や祭り・行事についての展示を行った。

#### ー令和3年度の展示ー

新緑の季節～子供の成長を願う天神人形～

4月23日（金）～5月25日（火）

夏のまつり～七夕絵どうろう～

6月11日（金）～8月22日（日）

秋の夜長を楽しむ～明かりの道具～

9月10日（金）～11月16日（火）

新しい年に向けて～干支の人形～

12月3日（金）～令和4年2月1日（火）

春の訪れ～ひな人形・押し絵～

令和4年2月18日（金）～4月5日（火）

担当：丸谷仁美・深浦真人（民俗）

### ◇出張展示、他施設との連携展示

#### ①「悪疫退散！～災いをはらい、福を呼ぶ～」

（秋田県立図書館）

令和3年4月3日（土）～5月25日（火）

観覧者数：5,643名

#### ②「真崎コレクション展 文庫内の叢書と菅江真澄」

（大館市立栗盛記念図書館）

令和3年10月29日（金）～11月7日（日）

観覧者数：32名

### ▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。企画展示室のケース開口部の電動器具などに故障が生じ

ており、平成16年リニューアル時の設備の老朽化が顕在化してきた。

## ▶ 解説案内サービス業務

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aをそれぞれ分担により実施した。コロナ感染症の警戒レベルの上下に応じ、団体見学への対応を変更した。例年行ってきた解説員館外

研修は中止した。解説員冬季研修では解説シナリオの作成、学芸主事によるアドバイス、解説実演を実施し、技能向上を図った。

## ▶ 分館(旧奈良家住宅)

主屋（重要文化財）を令和3年4月1日から令和4年3月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。9月30日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学とあわせ、学芸職

員が母屋および附属屋の解説を行い、10月16日には和風住宅であきた民話の会の方々による昔がたりを行った。

## 4 教育普及活動

館内及び館外講座については、企画展等の展示を解説するミュージアム・トークが昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いすべて中止となっていたが、今年度は受付の設置や人数制限などの感染対策を講じたうえで実施することができた。館外講座全体（出張講座等）の参加者数は978名（令和2年度1,365名）と昨年に比べ減少したが、博物館教室（名誉館長館話含む）については昨年に比べ新型コロナウイルス感染拡大による中止が少なかったこともあり参加者数は591名（令和2年度436名）と増加した。

イベントは、昨年度中止となった「軒の山吹」再現を4月下旬にボランティア「アイリスの会」の協力を得て分館で実施（78名来館）することができた。3月下旬に予定していたミュージアムコンサートについては新型

コロナウイルス感染症対策に伴い中止とした。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館の燻蒸サービスは例年通り実施したが、役員会、総会は書面会議で、実務担当者研修会はオンライン会議で行った。秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）の事業であるイベント通信は予定通り発行したもののギャラリートークセッションは新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

「友の会」とボランティア「アイリスの会」については、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて各部門に係るボランティア活動等を自粛または対策を講じての実施とした。

また、大学生の博物館実務実習や中堅教諭等資質向上研修等に対応した。

## ▶ 普及事業

### ◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

|            |     |      |
|------------|-----|------|
| ①博物館教室     | 49回 | 591名 |
| ②イベント等     | 1回  | 78名  |
| ③展示付帯事業等   | 4回  | 156名 |
| ④ミュージアムトーク | 12回 | 87名  |

①博物館教室の内訳は別表のとおり。定員の削減、受講者同士の密を避けるなど新型コロナウイルス感染防止に充分留意した対策を行いながら、教室を開催した。③展示付帯事業については、遠方の講師とリモートで講演を行ってもらうなど、新たな試みに取り組んだ。

|    | 教室名                    | 回数 | 人数  |
|----|------------------------|----|-----|
| 1  | 化石と地層の観察会              | 2  | 28  |
| 2  | 昆虫教室～採集と標本づくり～         | 2  | 34  |
| 3  | 山野の危険な生物               | 1  | 2   |
| 4  | くん製教室 初級編              |    |     |
| 5  | 貝の標本づくり                |    |     |
| 6  | 「真澄に学ぶ教室」講読会           | 8  | 90  |
| 7  | 初級者向け 秋田の歴史教室（戦国・桃山編）  | 2  | 15  |
| 8  | 土器作り教室                 |    |     |
| 9  | 三浦館・旧奈良家住宅合同見学会        |    |     |
| 10 | 地域回想法                  | 2  | 6   |
| 11 | 旧奈良家住宅で昔語り             | 1  | 16  |
| 12 | 土製アクセサリ作り              | 2  | 8   |
| 13 | 初めての古文書解説              |    |     |
| 14 | 秋田の先覚者                 |    |     |
| 15 | 民俗学入門講座                |    |     |
| 16 | 初心者向け藍のたたみ染め           | 9  | 24  |
| 17 | 糸をつむぐ                  | 4  | 32  |
| 18 | 木工芸 木のオブジェづくり          | 1  | 8   |
| 19 | キッズ限定 樹皮を編んで小物入れを作ろう   | 1  | 7   |
| 20 | 植物を編む                  | 1  | 7   |
| 21 | ゼロからはじめるワラ仕事           | 2  | 6   |
| 22 | 木工芸 Christmas Ornament | 1  | 16  |
| 23 | 博物館の仕事 体験教室            | 2  | 9   |
| 24 | 秋田をまなぶ講座 シリーズ2021      |    |     |
| 25 | 「真澄に学ぶ教室」講演会 第1回       | 1  | 57  |
| 26 | 講演会「三吉霊神の謎を解く」         | 1  | 40  |
| 27 | 「真澄に学ぶ教室」講演会 第2回       | 1  | 34  |
| 28 | 秋田の先覚記念室講演会            | 1  | 43  |
|    | 合計                     | 45 | 482 |

※ 斜線は中止となった教室

|    | 名誉館長館話 | 回数 | 人数  |
|----|--------|----|-----|
| 前期 | 秋田史談   | 2  | 60  |
| 後期 | 秋田史談   | 2  | 49  |
|    | 合計     | 4  | 109 |

#### ◇名誉館長館話

令和3年度の名誉館長館話は以下のテーマで行われた。

- ・前期『秋田史談』
  - ①6月18日（金）「秋田と海運」
  - ②7月16日（金）「秋田城の歴史意義」
- ・後期『秋田史談』
  - ③10月8日（金）「秋田人安藤昌益の発見」
  - ④11月12日（金）「安藤昌益の学説信念」

新型コロナウイルスの影響で、5月に予定していた館話を中止し、また後期の館話も1ヶ月ずつ実施時期を後に延期した。その関係でテーマや構成を一部変更して実施する運びとなった。受講生は合わせて109名であった。

#### ◇イベント等

- ・『軒の山吹』再現 4月21日(水)～25日(日)  
江戸時代の紀行家菅江真澄の図絵に描かれた風習を分館旧奈良家住宅に再現した。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、博物館ボランティア「アイリスの会」会員の協力のもと開催し、延べ78名の来館者に観覧いただいた。



『軒の山吹』再現

#### ・ミュージアムコンサート

進駐軍のピアノを使用した恒例のコンサートを3月下旬に予定して準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、出演予定者の準備期間を考慮して開催を見送ることとした。

#### ◇ミュージアムトーク

新型コロナウイルスの影響で令和2年度には一度も実施することのなかったミュージアムトークだが、令和3年度は感染対策をとりながら、企画展等の解説に限定して実施することとした。実施にあたり、次のような対策をとった。

- ・会場に応じて定員（10～20名）を設定し、開始30分前から受付を実施する。
- ・受付では参加者に氏名と連絡先の記入を求める。
- ・実施中は参加者同士が互いの距離を保つように、担当者から注意を促す。

以上のような条件の下、12回開催して87名の参加が見られた。コロナウイルスが広まる前の令和元年度と比べると4分の1程度の実績にとどまったが、参加者は展示解説に熱心に耳を傾けており、終了後も積極的に質問をするなど、概ね好評であった。

令和4年度以降も今後の状況次第となるが、感染対策に配慮しながら実施していきたい。

#### ◇館外講座

平成29年度より、県庁出前講座を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。全体で21回実施され、受講者の延べ人数は978名であった（前年度より8回減、387名減）。

講座の回数および受講者数はともに減となった。出前講座は1件が延期、1件がリモート開催となり、出前授

業は1件が中止となった。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響が推測される。

- ①出前講座 8回 464名(前年度7回163名)
- ②出張講座 5回 107名(前年度5回253名)
- ③出前授業 7回 250名(前年度17回949名)
- ④連携講座 1回 157名(前年度0回0名)

⑤その他 0回 0名(前年度0回0名)

なお、①県庁出前講座の内訳は次のとおり。

- ・博物館の魅力について 1回
- ・博物館資料から考える秋田の原始・古代 3回
- ・秋田のくらし・行事 3回
- ・秋田県の生きもの 1回

## ▶ 他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会(略称:秋博協)

(1)役員会、総会

当初総会の前に役員会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染の再拡大に伴い、昨年度と同様に役員会を中止とし、総会のみを書面会議により実施した。6月中旬に総会資料を加盟館に発送し、加盟館から寄せられた質問・意見について7月上旬に事務局から回答を送付した。

(2)実務担当者研修会 3月10日(木)

新型コロナウイルス感染予防の観点から、令和2年度に引き続きオンライン会議システム(Zoom)を利用して実施した。19館34名が参加した。

講師:野口 淳 氏(金沢大学古代文明・文化資源学研究センター客員研究員ほか)

講演:「博物館・文化財・地域資料のデジタル化と利活用」

(3)燻蒸消毒サービス 8月23日(月)~30日(月)

大湯ストーンサークル館、潟上市郷土文化保存伝習館、秋田市立千秋美術館、由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設、花火伝統文化継承資料館、美郷町学友館、後三年合戦金沢資料館、雄物川郷土資料館の8館が利用した。

(4)秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」

各加盟館が掲載内容を随時更新した。

(5)会報の発行『秋博協だより』第56号

600部を令和4年3月に印刷し、加盟館に配布した。  
加盟館数:53館(令和4年3月31日現在)

◇博物館「友の会」

(1)役員会・総会

新型コロナウイルス感染対策のため、開催せず。

(2)各種研修会

新型コロナウイルス収束の見通しが立たず、令和2年度に引き続き、令和3年度も実施されなかった。

(3)各ボランティアによる活動

県独自の感染警戒レベルが引き上げられた際には活動を原則中止し、その後、警戒レベルが引き下げられ

ると活動を再開するということを繰り返した一年であった。

- ・古文書整理ボランティア(10名) 隔週水曜日活動
- ・秋田古文書同好会(18名) 第三金曜日活動
- ・植物標本ボランティア(12名) 毎週火曜日活動
- ・考古ボランティア(10名) 隔週土曜日活動
- ・地質ボランティア(2名) 随時活動

(4)友の会だより

- ・第51号(3月刊行、A4判両面カラー250部)

(5)印刷物等配布 4回

7月7日、8月21日、12月1日、3月31日

会員数:140名(令和4年3月31日現在)

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話・織・図書・藁・藍の5チーム編成で活動に取り組んでいる。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動を大幅に削減、また感染防止対策に配慮しながらの活動となった。

お話チームは、例年行っている「おはなし会」を、わくわくたんけん室閉室のため実施せず、名誉館長館話の受付など来館者へのサポートのみ活動した。

織チームは、例年わくわくたんけん室での「裂き織り体験」の補助を行っていたが、今年度は実施していない。図書チームは、例年図書資料の整理(考古図書も含む)活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行っているが、今年は活動していない。

藁チームは、ワラ細工の製作技術研修を2回実施し、博物館教室のワラ細工体験を支援した。

藍チームは、絞り染めの製作技術研修を1回実施した。例年わくわくたんけん室でのタタミ染め体験や、セカンドスクールで来館した高校生への絞り染めの支援を行っていたが、今年は活動していない。

全チームによる取り組みとしては、「軒の山吹」再現への支援を行った。

会員数:37名(令和4年3月31日現在)

#### ◇その他団体（みるかネットなど）

秋田市内の県市文化施設のネットワークである秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）に当館も加盟している。各館共通テーマによる連携講座や国際博物館の日

にちなんで各館同一日に開催するギャラリートークセッションなどの連携事業に参加しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。同会議によるイベント通信は予定通り発行した。

### ▶ 博物館における実習・研修

#### ◇博物館実習

令和3年度の博物館実務実習は、9月2日～3日、9月7日～10日までの6日間、東北芸術工科大学、桜美林大学、米沢女子短期大学の計4名の実習生を対象にして実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、実務実習を受講する学生には、実習開始日の2週間前から秋田県入りを依頼した。講義形式で博物館について学ぶものと、体験実習形式での資料の取り扱いや、博物館の事業や業務を体験する実務的なものと2つに分け行った。

#### ◇中堅教諭等資質向上研修

8月5日（木）～8月7日（土）の3日間の日程で、秋田市立大住小学校の教諭1名が当館の研修を選択した。また、8月7日には秋田県立支援学校天王みどり学園の教諭1名が、学校独自の初任者研修として同じメニューで研修を行った。

研修内容は、1日目は「教員のための博物館の日」に参加して、各展示室及び分館の見学、たたみ染めや模擬セカンドスクールの体験活動を行い、2日目・3日目は収蔵庫等の見学と、博物館教室「博物館の仕事 体験教室」に参加して普及活動の体験を行った。

博物館での研修で得られた経験が、今後の職場で活かされることを願っている。

#### ◇各種視察研修対応

大学等各種団体の視察・研修について、全体で5件、98名を受け入れた。

秋田県立大学 7月15日・39名、7月21日・3名

秋田公立美術大学 9月28日・24名、  
10月10日・20名、  
10月24日・12名

### ▶ 博物館活動の記録・整理

#### ◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については、令和3年4月から令和4年3月までの一年間、新聞や雑誌等による56件の記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年2回行われる博物館協議会において委員へ配付した。また、ウェブサイト上に各種団体やサークル等が、博物館で開催されるイベント等を紹介する機会も徐々に増えてきた。掲載希望団体とURLを記録し、今後の広報活動に活用していく必要がある。博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、

マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

#### ◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。令和3年度の県内外からの各部門等に対するの問い合わせ件数は次のとおりである。考古9件、歴史14件、民俗14件、工芸3件、生物22件、地質11件、真澄9件、先覚3件、その他6件。

## 5 広報出版活動

特別展・企画展に関するポスターやチラシについては、展示内容に合わせてより効果的な広報先を検討し、関連団体等に重点的に配布した。

ホームページやフェイスブックは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて頻度の高い更新や投稿を行った。館内における広報については、新たにデジタルサイネー

ジを1F、2Fの各受付に設置し、来館者にわかりやすく情報を伝えることができた。

今年度の特別展は当館では初となるメディア企業との実行委員会形式による開催ということから、前売り開始日から閉展までの定期的な新聞広告やテレビCM、展示やイベント関連の新聞記事掲載など充実した広報活動ができた。

### ▶ 広報活動

#### ◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせて年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した各広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や道の駅などの観光施設、また県内外の博物館などにも発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の1か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

#### ◇その他の広報活動の実施と改善

令和3年度は前年同様、新型コロナウイルスの感染予防に対応しながらの活動となった。特別展・企画展の開

催前には、各報道機関が所属する県庁記者クラブに教育庁総務課を通じてプレスリリースを行い、情報の周知を図ることが通例であるが、令和3年9月18日から開催予定であった特別展「佐竹氏遺宝展」については、新型コロナウイルスの感染予防の観点からプレスリリースができなかった。ただ、それ以外の企画展に関しては、通常通り行うことができ、その他の内容のプレスリリースと合わせて、計4回行った。

そういった状況下ではあったが、特別展・企画展では、各報道機関からの取材もあり、テレビや新聞等で紹介された。また秋田県教育委員会の広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載も行った。

今後も多くの県民に興味・関心をもっていただけるような、コロナ禍における広報の在り方について検討していきたい。

### ▶ 出版物の刊行・配布

#### ◇展示ポスター

企画展「美の国の名残－博物館の審美眼」  
B 2判 1,200部  
企画展「秋田野球ものがたり」 B 2判 1,200部  
特別展「佐竹氏遺宝展－守り継がれた大名家資料－」  
B 2判 1,300部  
企画展「外来生物－運ばれる生き物たち－」  
B 2判 1,200部

#### ◇展示広報チラシ

企画展「美の国の名残－博物館の審美眼」  
A 4判 20,000部

企画展「秋田野球ものがたり」 A 4判 20,000部  
特別展「佐竹氏遺宝展－守り継がれた大名家資料－」  
A 4判 20,000部  
企画展「外来生物－運ばれる生き物たち－」  
A 4判 20,000部

#### ◇展示解説資料

企画展「美の国の名残」展示資料解説  
A 4判 12頁 1,000部  
秋田の先覚記念室企画コーナー展  
「近江谷栄次と小牧近江－父子の軌跡」  
A 4判 8頁 1,000部

#### ◇広報誌

博物館ニュースNo. 173・174

A 4判 8頁 各2,300部

広報紙「真澄」No. 39

A 4判 8頁 1,500部

#### ◇報告書等

年報 令和3年度

A 4判 47頁 800部

秋田県立博物館研究報告第47号

A 4判 50頁 500部

真澄研究第26号

A 5判 99頁 500部

### インターネット利用

令和3年度のホームページアクセス数は約4万7千回であった。夏季や特別展会期中を中心にアクセス数が大幅に増えたため、昨年度と比べると約7千回増加したものの、新型コロナウイルスの感染が広がる前の水準には及ばない。コロナウイルスや冬季の豪雪等の影響で、博物館の利用を控える動きが依然として見られることが、

アクセス数の伸び悩みにもつながっているものと思われる。

電子メールについては、県内外からの様々な問い合わせ、博物館教室や講演会などの申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

## 6 学習振興活動

学習振興では、体験型展示室の運営と学校団体の受け入れが活動の中心となっている。

体験型展示室のわくわくたんけん室は、自由に物作りや体験活動ができる環境をつくっていたが、新型コロナウイルス感染症の対策から、体験メニューを大幅に制限しながら運営した。また県の感染警戒レベルの引き上げに伴い閉室も行った。令和3年度も引き続き季節イベントや展示室との連携事業は中止となった。今後も体験型

展示室の防疫を徹底しながら、安心安全な運営を心がけていきたい。

学校団体の受け入れについては、年間を通して中止することなく実施した。アルコールによる手指消毒や展示室での人数制限によって密集密接を回避し受け入れを行った。また中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動については中学校や高校からの要望に応えながら実施した。

### わくわくたんけん室の運営

#### ◇一般及び団体利用への支援・指導

わくわくたんけん室は、多くの家族連れが訪れる体験型の展示室であり、子どもたちの来館目的の1つにもなっていた。

令和3年度も新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、閉室や開室を繰り返した。わくわくたんけん室は次の期間、閉室となった。

① 5月9日から6月11日まで

② 8月11日から9月30日まで

③ 1月26日から3月31日まで

また感染状況に合わせ、開室時間や入室人数を制限しながら運営を行い、令和3年4月から令和4年3月まで1年間を通して1,010名の利用となった。

わくわくたんけん室は、次のよう到来館者に対応した。

◆ 4月～11月第2週まで

#### わくわくたんけん室

・開室日 毎週土曜日

・開室時間 午前10:00～11:30  
午後13:30～15:00

・入室定員 上限25名

#### たたみ染め体験

・実施日 毎週日曜日

・場所 実験教室

・実施時間 午後13:30から

・定員 先着15名

#### ◆11月第2週以降

#### わくわくたんけん室

・開室日 毎週土曜日

・開室時間 午前10:00～11:30  
午後13:30～15:00

- ・入室定員 上限40名

#### たたみ染め体験

- ・実施日 毎週日曜日
- ・場所 実験教室
- ・実施時間 午後13:30から
- ・定員 先着15名

#### ◆12月～3月

##### わくわくたんけん室

###### ▽平日

- ・開室時間 午後13:30～15:30
- ・入室定員 上限40名

###### ▽土日祝日

- ・開室時間 午前9:30～11:30  
午後13:30～15:30
- ・入室定員 上限40名

###### ・たたみ染め体験

- 場所 わくわくたんけん室内で実施
- 実施時間 午後13:30～15:00
- 人数制限は無し



わくわくたんけん室は、新型コロナウイルスの感染対策のため、引き続き次のような対応を行った。

- ①出入口をカウンター側1カ所にし、入退室の導線を別々に確保
- ②手指消毒用アルコールの設置
- ③利用受付の設置
- ④入室人数の制限
- ⑤大型空気清浄機やサーキュレーターの設置
- ⑥休憩用じゅうたんの撤去
- ⑦宝箱、書籍類の利用休止
- ⑧電車乗車体験、さきおり体験、和装試着体験、石膏レプリカづくり体験の休止

#### ◇室内・体験アイテムの保守管理

本年度も昨年度に続き、コロナ禍の影響により、わくわくたんけん室の閉室、または人数・時間・提供アイテムを制限した限定開室の状態が長く続いた一年であった。

わくわくたんけん室が稼働しない日が多かったため、また年間で開催していた季節イベントの期間を設けず、提供するアイテムの種類が限定されていたために、材料や道具などの補充は例年より少ないものとなった。そのため、従来消耗品の補填に代わり、本年度は感染症対策として、入室時の手指消毒用薬剤、閉室後の室内消毒用薬剤や使い捨てタオル・手袋、清掃用のほうきや掃除機、その他各種洗剤等の衛生用品の充実を図った。不特定の人々が滞在し、備え付けの道具等に接触することから、道具類、座席周りには使用後、速やかに消毒作業を行うように留意した。

また、染料や紙など、従来使用していた材料の中に、製造終了により入手が困難になったものがあったため、代替品となるものを探し、アイテムの提供に支障が生じないよう努めた。

#### ◇宝箱及び体験アイテムの改善・開発

今年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、自由に手に触れて体験できる「宝箱」を使用した活動は全て休止となった。また体験アイテムに関しても、紙ひもで作るコマやイタヤ馬、紙で作る姉様人形、塗り絵など、一部のアイテムのみの提供となった。このような状況下であってもできる内容を模索し、ペーパークラフトのアイテムをホームページ上で公開し、各家庭でダウンロードして体験できるようにしている。

今後も状況に応じて、密を避け、消毒の徹底を行うなどの対策をとりながら、安心して体験できる、博物館ならではの体験アイテムについて、各部門からの協力を得て準備を進めていきたい。

#### ◇季節アイテム、イベント

令和3年度のイベントの計画は「たたみ染め」「レプリカづくり」「貝の標本・マグネットづくり」「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ!」「ミニ門松・しめ縄づくり」「木の葉・木の実アートづくり」といったものを、季節に合わせたものであった。しかし、コロナ禍の感染拡大により、その対策として「たたみ染め」以外は実施できなかった。「たたみ染め」は、4月から8月までと10・11月は、毎週日曜日の午後に行った。11月の第2週までは、手指消毒と連絡先の記入をお願いし、定員を15名として実験室で行った。11月から1月までは、

わくわくたんけん室に場所を移し、土日の午後に行った。今年度の「たたみ染め」の体験者は、家族連れが多かったが、大人だけのグループもあった。1回の開催で平均で約11人が体験し、体験した人々は、仕上がりをみると喜びの声を上げ、「またやってみたい。」と述べるなど好評であった。このような中で、多くの活動ができなかったが、イベントに対するニーズがあることを得たことは収穫であった。

#### ◇出張わくわくたんけん室

- ・7月10日(日) 自然科学学習館イベント  
サイエンスフェスティバルI、会場：アルヴェ、職員2名派遣、たたみ染め体験66名参加

※ 例年、紙ひもで作るイタヤウマやコマなども同時に実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策から、たたみ染め体験のみとした。会場の感染対策については主催者側で受付を行い適正な人数を会場に入れ実施した。

### 学校団体による博物館利用の支援

#### ◇セカンドスクールの利用

コロナ禍も2年目となったが、今年度も学校団体との打ち合わせ時には、マスクの着用と学校や家庭での検温・健康観察、入館時のアルコール消毒の必要性、及び展示室等の入室の人数制限を伝え理解してもらってきた。5月と6月は感染拡大のため20校が見学をキャンセルしたが、それでも、5月と6月の利用校数は22校で1,486名の利用があり昨年度より利用団体数・利用者数が多かった。年間では、128校の団体5,818名の利用があった。利用の約60%はバスの乗車時間が1時間未満である博物館近郊の学校団体で70団体である。多く利用した学校種は小学校の83団体4,235名であった。また、修学旅行で博物館を利用したのは25団体で、県北県南の学校が多く、10月と11月に集中していた。

今年度は、利用後の満足度やニーズを捉えるために小中高の学校団体にアンケートをお願いし、91校中75校から回答を得た。その結果は、満足度は「満足」と回答した団体が約90%、セカンドスクールの利用については、約83%が次回も「利用したい」と答えた。利用の仕方については、「5分解説後、自由見学」と答えた学校団体が58校で77%であった。多くの学校団体に十分に満足してもらえた。

|         | 令和3年度 |       | 令和2年度 |       | 令和元年度 |       |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|         | 学校数   | 利用人数  | 学校数   | 利用人数  | 学校数   | 利用人数  |
| 幼稚園・保育所 | 13    | 428   | 3     | 109   | 16    | 604   |
| 小学校     | 83    | 4,235 | 87    | 4,257 | 73    | 3,630 |
| 中学校     | 16    | 568   | 16    | 863   | 15    | 351   |
| 高等学校    | 11    | 481   | 4     | 230   | 30    | 771   |
| 特別支援学校  | 4     | 83    | 0     | 0     | 6     | 54    |
| その他     | 1     | 23    | 0     | 0     | 1     | 33    |
| 合計      | 128   | 5,818 | 110   | 5,459 | 141   | 5,443 |

#### ◇出前授業

- 小学校4校 80名 中学校2校 139名  
高校1校 52名

(昨年度 小学校13校718名 中学校4校232名)

博物館に訪れて展示室や学習室で実物資料に触れることは大変意義のあることなのだが、学校にとってはバス移動のための費用や時間等の負担が大きい。その点、出前授業は学校に居ながら実物資料に触れたり、学芸員の話を聞くことができることで学校にとってもメリットがある。

昨年度からセカンドスクールで博物館にいらした先生方に出前授業の広報を行ったが、今年度はコロナ禍のため控えた。また、申込の連絡があっても、感染レベルが下がるまで保留せざるを得なかったり、休校のため直前にキャンセルになった学校もあつたりした。

例年冬季に小学校3年生の「昔の暮らし」の依頼があったが今年度はなかった。また、天王南中学校からはコロナ禍で職場訪問ができなかったため「企業ガイダンス」の依頼があり、博物館の仕事について紹介した。

- ・小学校6年 …… 地質（大地のつくり） 4校
- ・中学校1年 …… 歴史（北前船と秋田） 1校
- ・中学校2年 …… 博物館の仕事 1校
- ・高校1年 …… 地質・民俗

（五城目の自然・民俗）1校

#### ◇職場体験、インターンシップ

多くの中学校・高校でキャリア教育の一環として職場体験・インターンシップを実施している。当館にも例年依頼があり、各学校の人数の上限を3名として対応している。今年度は年度当初潟上市教育委員会から3つの中学校の依頼があったが、コロナの影響で中止となった。また、予定数日前にコロナ陽性者が確認されたことで

キャンセルとなった学校もあった。

活動内容としては、考古・地質・生物・民俗部門の作業体験、展示室清掃、発送業務補助などであった。

- ・職場体験・・・1校6名
- ・インターンシップ・・・2校3名  
(昨年度実績、コロナの影響で職場体験・インターンシップどちらもなし)

#### ◇教員のための博物館の日

8月5日(木)、各学校種及び教育機関などから合わせて12名の参加があった。新型コロナウイルス感染への警戒が続く中、参加者は例年より少なかったが、感染防止対策の徹底をはかり、開催することができた。午前中は、セカンドスクールの概要紹介や、わくわくたんけん室の利用についての説明を行った。また分館・旧

奈良家住宅において、昔の人の暮らしや道具など、授業への活用実践も交えた解説を行った。午後からは、和紙のたたみ染めの製作体験を行い、活動時間や作業の難易度や面白さを体感してもらった。その後、企画展及び本館各展示室の見学を、2コースに分かれて実施した。見学後は、実験教室で貸出可能資料について、申請や活用方法などの説明を各部門ごとに行った。参加者からはコロナ禍でも安心して参加でき、たいへん有意義だったなどの感想をもらった。

国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟してからは5年目の実施であったが、感染対策や他館の状況など情報を得ることができた。次年度も、当館のセカンドスクールの利用への更なる啓蒙を図るためにも、よりよい活動を目指したい。

## 7 館外活動

#### ◇執筆(著者・論文など、「研究報告第46号」は除く)

- ・新堀道生  
「土崎湊小宿松本家の業態」(『秋大史学』67号)
- ・松山 修  
共編著『菅江真澄資料集 第二集』(東京学芸大学発行)

#### ◇講演、講座など

- ・新堀道生  
「やさしい古文書解説講座」(にかほ市教育委員会)
- ・松山 修  
「月の出羽路・現代語訳のための音読のすすめ」(中仙文化財保護協会)
- ・斉藤洋子  
「秋田の布の今と昔を比べる」(秋田県立大学)
- ・角崎 大  
「菅江真澄遊覧記から男鹿にまつわる話」(旭水会男鹿支部研修会)

#### ◇委員委嘱

- ・新野直吉  
史跡弘田柵跡調査指導研究委員(委員長)  
後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員会特別委員  
由理柵・駅家研究会顧問
- ・今川 拓  
由利本荘市偉人マンガ製作・活用検討委員
- ・藤原尚彦  
大潟村干拓博物館協議会委員
- ・新堀道生  
由利本荘市文化財保護審議会委員  
文化財収録作成調査委員
- ・丸谷仁美  
横手市文化財保護審議会委員  
湯沢市文化財保護審議会委員  
由利本荘市民俗芸能伝承会運営協議会委員  
日本民具学会評議員  
秋田県の郷土食調査委員  
八戸地方えんぶり調査委員会調査員
- ・加藤 竜  
大館市文化財保護審議会委員
- ・渡部 均  
大館市文化財保護審議会委員  
男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会アドバイザー

## 8 令和3年度のあゆみ

### ◇防災訓練 5月20日(木)

本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

### ◇第1回秋田県立博物館協議会 8月4日(水)

令和3年度の事業計画を報告したほか、コロナ禍における博物館運営のあり方について協議を行った。委員からは、各所属先におけるコロナ禍での取組を伺ったほか、今後の博物館運営にはデジタル技術の活用が欠かせないといったご意見をいただいた。

### ◇応急手当講習会 12月16日(木)

土崎消防署救急救命士を講師に招き、心肺蘇生法の手順とAEDの操作方法の講習会を実施した。

### ◇文化財防火デー防災訓練 1月20日(木)

1月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である旧奈良家住宅(分館)において、火災発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

### ◇第2回秋田県立博物館協議会 2月18日(金)

新型コロナウイルス感染症予防のため、対面での会議

を取り止め、書面開催により実施した。今年度事業の経過と次年度事業の計画案を報告事項とした。また、博物館デジタルビジョンとミュージアム活性化事業(令和3年度特別展の評価と今後3か年の事業計画案)を協議事項とし、報告事項と併せて、委員の皆様からご意見をいただいた。

### ◇博物館におけるデジタル化の取組

コロナ禍において、来館者との接触を最小限に抑える中で、デジタルコンテンツ等の充実を図り、インターネットを介し情報を提供できる環境を整備した。

- ・コンテンツ等作成用パソコン、デジタルカメラの整備
- ・インフォメーション用デジタルサイネージの設置
- ・展示解説用大型モニターの設置
- ・館内Wi-Fi環境の整備

### ◇コロナ禍における博物館の運営

県のコロナ対策の方針を基本に、県コロナ感染警戒レベルに合わせ、館の対応をその都度検討し、施設の一部閉鎖(わくわくたんけん室の閉鎖)やイベント等の延期や中止、又は再開を決定しながら、運営を行った。



資

料

---

# I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (令和4年4月1日現在)

| 総集    | 美術  | 工芸     | 歴史    | 考古    | 民俗     | 生物      | 地質     | 先覚    | 真澄    | 計       |
|-------|-----|--------|-------|-------|--------|---------|--------|-------|-------|---------|
| 3,787 | 450 | 13,796 | 9,176 | 2,642 | 10,647 | 125,813 | 17,690 | 5,583 | 2,233 | 191,817 |

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

| 指定区分 | 部門 | 記号番号      | 物件名                                      | 数量       | 指定年月日      |                  |
|------|----|-----------|--|----------|------------|------------------|
| 県    | 美術 | 絵画第6号     | 紙本着色 秋田風俗絵巻                              | 1巻       | 昭和29. 3. 7 | 県指定有形文化財 (絵画)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第40号    | 刀 銘出羽住忠秀刻印                               | 1口       | 昭和38. 2. 5 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第34号    | 鐺 壇溪図                                    | 1枚       | 昭和38. 2. 5 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第53号    | 短刀 銘天野藤原高真作<br>元治元年吉日                    | 1口       | 昭和44. 8. 9 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第60号    | 刀 銘天野河内助藤原高真<br>慶応二丙寅八月吉日 応三森<br>光茂需作之   | 1口       | 昭和48. 6.16 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第63号    | 魚藻文沈金手箱                                  | 1合       | 昭和53. 2.14 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第62号    | 鐺 (あやめ図透彫)<br>銘 出羽秋田住正阿弥二代作<br>享保十八年三月日  | 1枚       | 平成 3. 3.19 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第67号    | 刀 銘羽州住兼廣作<br>安政四年三月吉日                    | 1口       | 平成 4. 4.10 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 県    | 工芸 | 工芸第66号    | 秋田家資料 (刀剣類ほか)                            | 1括       | 平成11. 3.12 | 県指定有形文化財 (工芸)    |
| 国    | 考古 | 考古資料第362号 | 人面付環状注口土器<br>秋田県南秋田郡昭和町大久保<br>字狐森出土      | 1口       | 昭和53. 6.15 | 重要文化財 (考古資料)     |
| 県    | 考古 | 考古資料第25号  | 勾玉および玉類<br>(枯草坂古墳出土)                     | 52点      | 昭和57. 1.12 | 県指定有形文化財 (考古資料)  |
| 県    | 考古 | 考古資料第26号  | 鉢形土器 (沢田遺跡出土)                            | 1点       | 昭和57. 1.12 | 県指定有形文化財 (考古資料)  |
| 県    | 考古 | 考古資料第27号  | 穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)                           | 1括       | 昭和58. 2.12 | 県指定有形文化財 (考古資料)  |
| 国    | 考古 | 考古資料第435号 | 磨製石斧<br>秋田県雄勝郡東成瀬村田子内<br>上掬出土            | 4箇       | 昭和63. 6. 6 | 重要文化財 (考古資料)     |
| 県    | 歴史 | 歴史資料第6号   | 久保田城下絵図                                  | 1幅       | 平成 1. 3.17 | 県指定有形文化財 (歴史資料)  |
| 県    | 歴史 | 歴史資料第7号   | 紙本金地着色<br>男鹿図屏風                          | 六曲<br>一双 | 平成 3. 3.19 | 県指定有形文化財 (歴史資料)  |
| 県    | 歴史 | 書跡典籍第10号  | 平田篤胤竹画讃                                  | 1幅       | 昭和39.11.17 | 県指定有形文化財 (書跡・典籍) |
| 県    | 歴史 | 書跡典籍第11号  | 平田篤胤書簡                                   | 1巻       | 昭和39.11.17 | 県指定有形文化財 (書跡・典籍) |
| 県    | 歴史 | 書跡典籍第12号  | 平田篤胤和魂漢才                                 | 1幅       | 昭和39.11.17 | 県指定有形文化財 (書跡・典籍) |
| 県    | 歴史 | 書跡典籍第17号  | 手柄岡持 (朋誠堂喜三二)<br>自筆作品並びに関係資料<br>(江都前後赤壁) | 1点       | 平成30. 3.16 | 県指定有形文化財 (書跡・典籍) |
| 国    | 民俗 | 建造物第1594号 | 旧奈良家住宅                                   | 1棟       | 昭和40. 5.29 | 重要文化財 (建造物)      |
| 国    | 民俗 | 第5-130号   | 旧奈良家住宅味噌蔵                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-131号   | 旧奈良家住宅文庫蔵                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-132号   | 旧奈良家住宅座敷蔵                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-133号   | 旧奈良家住宅新住居                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-134号   | 旧奈良家住宅南米蔵                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-135号   | 旧奈良家住宅北米蔵                                | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 国    | 民俗 | 第5-136号   | 旧奈良家住宅北野小休所                              | 1棟       | 平成18. 3. 2 | 登録有形文化財          |
| 県    | 民俗 | 民俗資料第12号  | 県内木造船資料                                  | 13点      | 平成 4. 4.10 | 県指定有形民俗文化財       |
| 県    | 民俗 | 民俗資料第13号  | 秋田柚子造材之画                                 | 1点       | 平成 5. 4. 9 | 県指定有形民俗文化財       |
| 国    | 生物 |           | 田沢湖のクニマス (標本)                            | 1点       | 平成20. 7.28 | 登録記念物            |

## Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧

### 名譽館長

|      |          |
|------|----------|
| 新野直吉 | 平成12年4月～ |
|------|----------|

### 歴代館長

|       |                  |
|-------|------------------|
| 佐藤文夫  | 昭和50年5月～昭和52年3月  |
| 加賀谷辰雄 | 昭和52年4月～昭和53年3月  |
| 奈良修介  | 昭和53年4月～昭和58年3月  |
| 畠山芳郎  | 昭和58年4月～昭和63年12月 |
| 斉藤長   | 昭和64年1月～平成元年3月   |
| 佐藤巖   | 平成元年4月～平成3年8月    |
| 橋本顕信  | 平成3年9月～平成4年3月    |
| 近藤貢太郎 | 平成4年4月～平成7年3月    |
| 高橋彰三郎 | 平成7年4月～平成9年3月    |
| 新野直吉  | 平成9年4月～平成12年3月   |
| 富樫泰時  | 平成12年4月～平成15年3月  |
| 佐々田亨三 | 平成15年4月～平成17年6月  |
| 三浦憲一  | 平成17年6月～平成18年3月  |

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 沢井範夫  | 平成18年4月～平成20年3月 |
| 佐々木義幸 | 平成20年4月～平成21年3月 |
| 鈴木幸一  | 平成21年4月～平成22年3月 |
| 荒川恭嗣  | 平成22年4月～平成23年3月 |
| 神馬洋   | 平成23年4月～平成25年3月 |
| 風登森一  | 平成25年4月～平成27年3月 |
| 佐々木人美 | 平成27年4月～平成29年3月 |
| 山口多加志 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 山田浩充  | 平成30年4月～平成31年3月 |
| 高橋正   | 平成31年4月～令和3年3月  |
| 今川拓   | 令和3年4月～令和4年3月   |
| 小園敦   | 令和4年4月～         |

### 特別展等一覧

|         |     |                      |
|---------|-----|----------------------|
| 昭和53年1月 | 地域展 | 伝説の里鹿角               |
| 7月      | 特別展 | (東京国立博物館巡回展)<br>日本の美 |
| 10月     | 特別展 | 文化庁所蔵優秀美術作品展         |
| 55年1月   | 地域展 | 鳥海山麓－山と人－            |
| 7月      | 特別展 | 日本の時代服飾              |
| 56年9月   | 東北展 | 東北の仮面                |
| 58年1月   | 地域展 | 平鹿－水とくらし－            |
| 7月      | 特別展 | はにわ                  |
| 59年5月   | 東北展 | 東北の近世大名              |
| 60年12月  | 地域展 | 能代・山本<br>－川と山のくらし－   |
| 61年7月   | 特別展 | 世界の貝                 |
| 62年6月   | 東北展 | 出羽の近世大名              |
| 63年5月   | 特別展 | 神々のかたち－仮面と神像－        |
| 平成元年6月  | 特別展 | 日本列島発掘展              |
| 11月     | 地域展 | 湯沢・雄勝の文物展            |
| 2年7月    | 特別展 | 日本のやきもの              |
| 3年4月    | 特別展 | 世界の昆虫                |
| 4年7月    | 特別展 | 近世美術の華               |
| 5年4月    | 特別展 | 鳥ってなあに               |
| 6年4月    | 特別展 | 北方文化のかたち             |
| 7年4月    | 特別展 | 地球を見つめる小さな眼          |
| 8年10月   | 特別展 | ラ・ビレット<br>－科学の遊園地－   |
| 9年11月   | 特別展 | 日本のわざと美              |
| 10年4月   | 特別展 | ネアンデルタール人の復活         |

|         |          |                            |
|---------|----------|----------------------------|
| 平成11年4月 | 特別展      | おもちゃ                       |
| 12年10月  | 特別展      | (国立博物館美術館巡回展)<br>信仰と美術     |
| 16年9月   | 特別展      | オリエント文化展                   |
| 10月     | 北東北三県共同展 | 描かれた北東北                    |
| 17年7月   | 特別展      | いきもの図鑑<br>～牧野四子吉の世界～       |
| 18年9月   | 特別展      | 熊野信仰と東北<br>～名宝でたどる祈りの歴史～   |
| 19年7月   | 北東北三県共同展 | 北東北自然史博物館                  |
| 20年7月   | 特別展      | 昆虫の惑星                      |
| 21年4月   | 特別展      | 白岩焼                        |
| 22年5月   | 北東北三県共同展 | 境界に生きた人々                   |
| 23年7月   | 特別展      | 粋なよそおい 雅なよそおい              |
| 24年9月   | 特別展      | アンダー×ワンダー！<br>－北東北の考古学最前線－ |
| 25年7月   | 特別展      | あきた大鉄道展                    |
| 26年9月   | 特別展      | 菅江真澄、旅のまなざし                |
| 27年9月   | 特別展      | 徳川将軍家と東北                   |
| 28年9月   | 特別展      | 発掘された日本列島2016              |
| 29年7月   | 特別展      | 妖怪博覧会<br>～秋田にモノノケ大集合！～     |
| 30年7月   | 特別展      | あきた大鉄道展 HE-30系             |
| 令和元年7月  | 特別展      | 1964－世界の祭典から半世紀－           |
| 令和3年9月  | 特別展      | 佐竹氏遺宝展<br>－守り継がれた大名家資料－    |

### III 秋田県立博物館条例

( 昭和50年3月12日公布  
昭和50年5月1日施行  
平成31年10月1日最終改正 )

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足鳩崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1(第4条関係)

入館料の上限額

| 区 分                    | 金 額  |               |
|------------------------|------|---------------|
|                        | 個 人  | 20人以上の団体      |
| 小学校児童及び中学生徒            | 200円 | 1人につき<br>160円 |
| 高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生 | 400円 | 1人につき<br>320円 |
| 一 般                    | 600円 | 1人につき<br>480円 |

備考：この表における「小学校児童及び中学生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第2(第4条関係)

| 区 分   | 金 額         |
|-------|-------------|
| 講 堂   | 1 日 11,940円 |
|       | 半 日 5,970円  |
| 学 習 室 | 1 日 3,560円  |
|       | 半 日 1,780円  |

## IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

### ◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

### ◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

#### 第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

| 期 間            | 時 間                |
|----------------|--------------------|
| 4月1日から10月31日まで | 午前9時30分から午後4時30分まで |
| 11月1日から3月31日まで | 午前9時30分から午後4時まで    |

（休刊日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

## V 入館者に関する資料

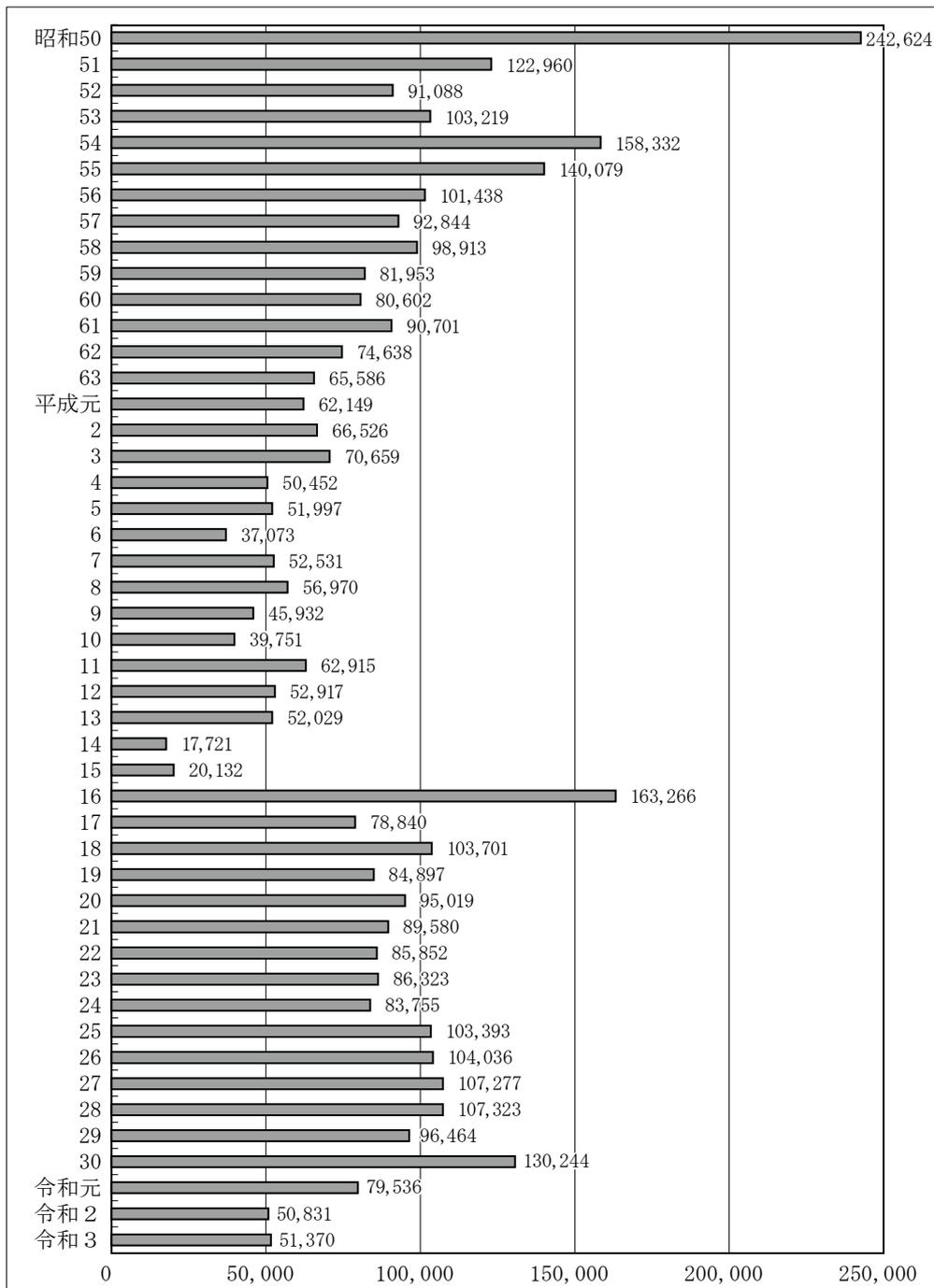
### (1) 入館者数内訳

令和2年度  
 総入館者数 50,831人  
 有料展示  
 開催中止  
 (新型コロナウイルス感染症拡大による)

令和3年度  
 総入館者数 51,370人  
 有料展示  
 佐竹氏遺宝展－守り継がれた大名家資料－

### (2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,986,438人 (令和3年度末)



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

## ～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分  
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日  
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)  
・年末年始  
(12月28日～1月3日)  
・燻蒸消毒の期間  
令和4年度は9月5日(月)～9月12日(月)

入館料 無料  
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

| 区 分   |     | 金 額     |
|-------|-----|---------|
| 講 堂   | 1 日 | 11,940円 |
|       | 半 日 | 5,970円  |
| 学 習 室 | 1 日 | 3,560円  |
|       | 半 日 | 1,780円  |

## ～交通案内～



本 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分  
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分  
車：秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より10分、秋田北 I C より15分  
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分  
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

---

## 秋田県立博物館年報

令和4年6月発行  
〒010-0124  
秋田市金足鳩崎字後山52  
秋田県立博物館  
T E L 018-873-4121  
F A X 018-873-4123

---